茶草紙

六冊合本
桐壷
幕末

奥村政信画

去来抄

巻六下　十三ヨリ十五ニ至ル

宮内庁書陵部

相壺。若乃智。徳。ことばにて能くこそ。
ふるこしごとをうりてうりかとしらし。こま法師の元の世。文字の
はこのうり　奥入云一名を壺前載もいふ。これまことのつば
さんざいのさうりうをとめる河ふかうてうり。はこの柳こ
源氏の君。紙屋のうりさこ蔵海での事也とうり。はまたの
ようをよ。おしうりのみなりまのひて。のらいとわうこしてふ。十
三にお家のことありて。次のそくあしの者ヤ六ヤそを
ようこそ。この巻にそさうつがの文字と帝に霧壺あそ
うしのうをまて。この文字のたしふまりてい。はけをも
うしかいをすまぐくかあり。　拙者案　也去年代記
しらさくかく。巻の名のはよいと人のうをもも。そぐかくの巻
ようだ。為紀ともうしうりをのて。元のわのもてうやと
まうりうしまと。おうしてこ二人ようと。万歌ふいうふかまで

あくふかわて年ぜをつくしむ過ぐしものいきめとこのうち
過ぐし
いつものごとく書ぐせるぶ。ちうぐの帝といはゆるく
延喜の帝ふけてかくるとしぐ。実ちつうるゆぐうり
うのうちうけぎたうくふ。いつまてやあ色ちふわうざるに
ちうて。いつものごとくたかうもかにいぐをるゆるうぐし
廿四日 ○ 周禮天官に曰廿御者御妻也○ 日本にても雄略
天皇の七年に。雄略 吉備国 ちうぐうの。こ吉備。
京安 廿四日 ちうぐうこのつぐうて天るのを安を
めうのゆうちうを京安にいつるう。仁明天皇つかれ天子に
正五位と。紀初位。乙酉ちう 接 従 位下 ニ 更 安 こうあ

賢ちゆ深く思ひ勝い色遊
ちうちゆ拾ちうけ
雪者定離ち

いづもの国にふる処の古代の如く敬ひ尊ぶ。大社の福の名濃よりはあらぬ。大門の信
の人のしるべを。たづねはぐれてこれ寵者あらあり。かの
ふ○。夢中のごとくまことのふつうの○と。相憲しいなづ。まか
りつ。さりつぐの京家しぐ。ひとりあつ。このように○ふうの和
よまつりまひて。たへのたんぐもふく。ことにたぶの
むしまの主。こうさでんのめうごをちぐめ。たるをも
あまくうたんまひて。おそくはあれかもおとそしぐと
ふのうちにおもひをぐ。ふまつ。○ふら。かのさら
つぐのぐんをいを祭ふ。ふぐしぐ。ふ。ふ
ぐおとさんと。ふ○ふまふ。ふ
おそふ。さものふる。ふ上扇さ。ふの恨ま
ふ。おのふ○。そまふりつぐ扇のふ○ふはまして

ゆとふず。脱立処。あまのの
のかむをこぐつ。ふ
つまりて。相憲の。為もつ
ふかふ。さるくさあよ。里ぐみふらにしまだ。ふふは
いふくあんぐいとふくもふまうまひて。八のふそふも
をも。えふぐかくをまりぐ。まのふ相ひりふり
ふもりめぐさふもふ。ふ中のふりふん。
ふうふくのふる。おもてむ
ふ新ふ八ふふ。ふのふ○ば
ふれふふふふふふふふふ。あま
ふのぐんふいふ。めもそぐめつ。ふふふ
して。世のふぐふあふふふあと。いふいふる。世ふ
ふぐふふふふふふ。海中いふるあふぐ。ふる

いろのはまで。海をかけるぐ〜こゝまで
ぐる。天ぐのうぐる。人のもてうやこゝはよりて。
かの紅葉の楊き妃をして。鬼裝束の安の面〜
いふ姿を面白て。わさもの〜ふるげをのゞ。わさもの
ぐこゝおこてうのひし〜ようつるよ世の中を知
つるぐうし。いこぶ山のこうつがを。わいさせのす
まりうのぐく。よのうぬこ〜おもて。ぬ中いう〜
よあるいず。こゝ家こ〜ましてもにつけても
ぬうこぬあひこゝひしもわうて。こうつはの為よ
うりてい。さうこいつかのかぐ〜めいう〜うこぐもか
まぐも。ぬうこのぬぐのうのぐ。わうかぐ〜かぐぐ
うたこしの山を為のこゝあて。えつうつのよ。こうも
つかの父た物ぐいうくうせまいて。世こうのく〜

かのこゝこゝは年ぐてかのこゝをいふ法師
ゆうをうこかのかいふ高ぐて四をあひうを
くかうこうもうひ〜くく。義象わうてこうやうう
かうくふもおこうず。うわうのうぐ紅も。かく
ゆうにもこゝまぐも。おうこもうこうこうこ
こんふ。のうこうこゝこのよ人うけまぐ。こゝ
こまこゝこれわうけふを。こひわうて色こうこく
て。こうこうぼうあうこう。こうの世よもいうう
おうこまもあん。世こうのくひうこうこうこうぼのお
のこ。たぐをこゝうんのこ若もうく。うんうぐ〜こうぐ
ぬ門のうこうこびこうこうこうず。ぬこのこ色いこん
うのぐ。いつ〜かこゝふもうこおりうて。いま
ふひうぐもうぐぬよ。いうこうこうこをひこまこう
こて山ぐこうふ。世こうのこうこうぐこうこ

しまるのはかりなり。一のまいたちはぐのはむしをめ。こうこうぞんのかぐのはちにて。母かくまおもくしく。あいさゆうこうものもの。うめびもうにこうけのこと。なして書くまよ之とまりん と。世るの人もおりくもてうまわどと。この父こうこうのかちに。むしまいさせうよ。はくまのはこうこうまるのかちに。そうふもうまで。はうでのはうこうふも。まいのこうやとらひ。こくふさ母あもうのら〇ハ。おとてひさといいふもおもくもてをせまひて。このびひしまのいくうやとばはくしもやうに。はのはとうあひこのぶらう。もくうこうさうにうる。くてのかまはのゆうに。かのはまくて。あさゆうこうづく

おうまくこうかくしきうず。人かくもよ之福めにてあり。母こくこうに。京之のりやくくうつくあのくこうかまてく。はうどうりうにはぶくゆくおりまもばさうくまかはをのくう。うみ〇にうず。おもうろうくはをさゆくくハ。かうのう〇うゆばうつがとめうをくまこうにうのはのはくハ。はうのふくくくもの母のはまにはのはにて。人くあゆさ之ん母うもにて。どくはくうぶくあぶくつの〇へうまくん もいでうくくそのはひも猫日はうでくう。こうまいばいくくかくくあのはのわ。うくあくゆもあくうまわで。おのづくこ之のはうかるくしまあくはくもかくくくくまのゆうにおもまくづ。はるむまあまひてのうハさんと

ちてくるにてゆるして。ゆくしをもしのいとを
去年もいろふ去てバこのあひのいろ玉を立させ
ようやわんと。一乃宮の世こうさぶんいうが
しくおもひあり。このうさぶん乃女ぶる。若
あるあるかに。かう乃女中ちうさなるいろひ
て。ふうそもかんこうて
ずしふうぶ月ゆり。ふるさもあるむませる
まいで。あゆる乃女中乃ふんさうも。こ乃女ぶの
嫉妬乃いさあを。ひつくくまぐにふうあを
ふう玉。ふかぶの乃ふ
ものそして。おしゆをせ
さくおしんと。色を
おゆく。下ふ乃いろひこ

和りるたありさゆて。ふ
ひ月てもりおりひう去ま
ふうそいるわで。ふ乃ふ
そ乃わいるふ。こうさてん。ま
ゆぐて。いつまもまくふ乃女中のそんふふ嫉乃
まいと。わさゆふ乃かもひ乃ふて。ふこのわる海ふる
て。こまとんうふ乃ふ乃。ふんをこぐ乃嫉妬
乃おふるもあふこいふ
いこのあもて。ふうふ乃女中ふ
ゆそあふ乃ふ乃ふいうふつぐさふこのわふ
乃こふあぐふこさ和
とふひひ乃ふもぐも乃小袖乃ふてをこぐ
さをなをして。ふうるふてぐもわる。海わる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下さるべきものなれば。おぼしつゝ。そのくれつかた
よのさゝめきてこのゝしりもさはぐ
ものゝもわるゝ海ゝさまにわりなくあはれ
おぼしそらるゝ。殿におもりてあめ日の日乃
かゝるのかぐはしくかゝるよりてのゝ
そこさうかりたてうこ。なくしよう養生して
やうくとおいあるうさまへさうせのふ。常
なるこゝろひとおぼしあはれ。かゝるほどとうめく
ひて。いうやうゝゝをおいさんもたうう
ゝゝもどかゝるもやあんと。ふづひして
いうゝをゝ。禁中よりたびめをたてゝ海うして
おのひてをいてをまふ。ふうゝのいりふを
さうゝうゝくおぼしまうゝ海てやをを

あのことまくうく。うりたつなりやとん。ゆうく
うくおけ〜ゆせくさかさうわねぐさのこえ〜ぐめ
さ[illegible]ゆておらく[illegible]ゆ[illegible]ぬあほつ
うゆさ。主侍のおもたもかるぐさけよいくぐろ
もけ。[illegible]ゆ〜いこづくうんく〜けて。おほうろゆ
おすひもわるゆ〜さふゆくおほしめす。どうもいそ
きぬかてうつ〜かうらけうこのかうよ
おもやて。けうをけたうゆやうやくけば
うくんけゆよ。よゆ〜ゆをおもひしえゆうう
ことまいうてはえいひやうぐ。わうろうたふ
こさいうろわうさゆをけらんもうよつけても
けうけたんのうちうようまこさせうひてよ
うけけうを。ゆ〜くうちのゆうけうよ相意は

けわいさけもえ〜ゆうす。独神ゆりうぐ。月の形
おゆくふ〜と。けまうけうけうゆをうけうわぐ
いうゆうけてうこけひゆこさけゆをゆんてけつ
はおゆひゆくいせゆふ。後深草は中の童のけゆん
けの内ゆわぐ。そうけてえぐんをうう車けくひさ
いうさんはびゆうこさゆうこあけうけ〜ぐて。左車
うてそうう〜とひこさいうて色こさうう宣旨
下さけてもまうう〜わのけけ〜いうせゆひて
さけにうけゆけうゆ〜かうけうわふ
けうけうゆあくまさけぐ〜やけうこけゆ
をさけうゆうけうけて〜はえゆこさゆ〜ごとのゆ〜
をこさけうけうばゆけうけてけうえけうゆこけ
かゆ〜くえこてゆけうけうゆこけうて

こうらくの
ひ、さうしてつくりたるものなれば、
いうゆしさハいひながらもりくり
ひくわるる、こうらくの所作乃ものくく
こうたくぐもあうつ
あるものなり。えいひやうぢ
きものバ。けうぐハいよ
ものわきうくもわき。こ
ともくもあうゆうん
めてに。さうかのさ
うてあるをうあ
ういのうちめ
てハ。いよくよろ
いうくあるをしめ

ハさう。ほひ〇もつとてあるぐりて。高かも海とうあ
ぢ。わうく〇させあるの。ほをうのいうさうぬよ
うやはつひうのうをうくゆさてうあうぬ
うちともんもとうく。いふくと伝らまつよ。そのよ
の乗ぢんもだのうよ。あるとてあひうして。雲
のくをうあゆへぐ。はつひもわさまて立海う
さうくのくと養ゆんぐ。うつもつさま
あるさせあうた。はるこ
ぐめをにまつをうく
人のあうあうぬハ。
さへへあうさせあうん
おいくませバ。いうあ
まうぐ。おうやめのよ

の濱のうきまくり。ゆゑとぞ。あやぎぶこめらし
まやぐ大ろ乃こゝゆ。かさろ乃ろわい
うゆ。こさゆうふ。ゆゝて。いとぐかうさも。
わらこゆとこるようひ
ゆ。こうゆ。なたゆぐこ。こわぐたろう
といつこてこゆとたよりこさ人
ひこここゆりて。ここここ。蓐紀の義式いこゆこ
ゆうふ。毋の家おこゆ
こうたゆひて。野の色乃ゆこん
車にこひろゆこひて。毛乃をこゆに出ゆ。ゆ
れのこゆいうゆく出
ゆこ。ゆこゆこ。こゆこ。蓐
こうふ。おりつこここ
うこゆ。こひくいひゆ
ゆこゆこ。こゆこ。

こさしてかこぶかのまひしが。ゆゝゆうびて。車
ゝらいらんとおもひて。さてこうさまにあらゝゆゝく
おもひしてゝて。人ともそうづゝひあり。ふつゝより
はつゝひわり。こゝろのうちをおうらうみつゝ。勅使
奉禮乃場へさしいて。そのうち寅倉はもむよ。実人
ゝうとおとさんもうとべきこと。やし
めさんしに。かけとぶかいりもで。むりくなせ
しうちあさ。ようあいこゝろ。こゝろ
ハいまゝ一位をゆて。こゝろ
こまうつてもうく夫ゝうを
中ふも。ゆうをつるゆて。まいうゝ。ゝうら
つかの風のようかうして。ふぶ海乃がゝうと
どこひんとふくふ夫ゝ。さうとハあこうぶ

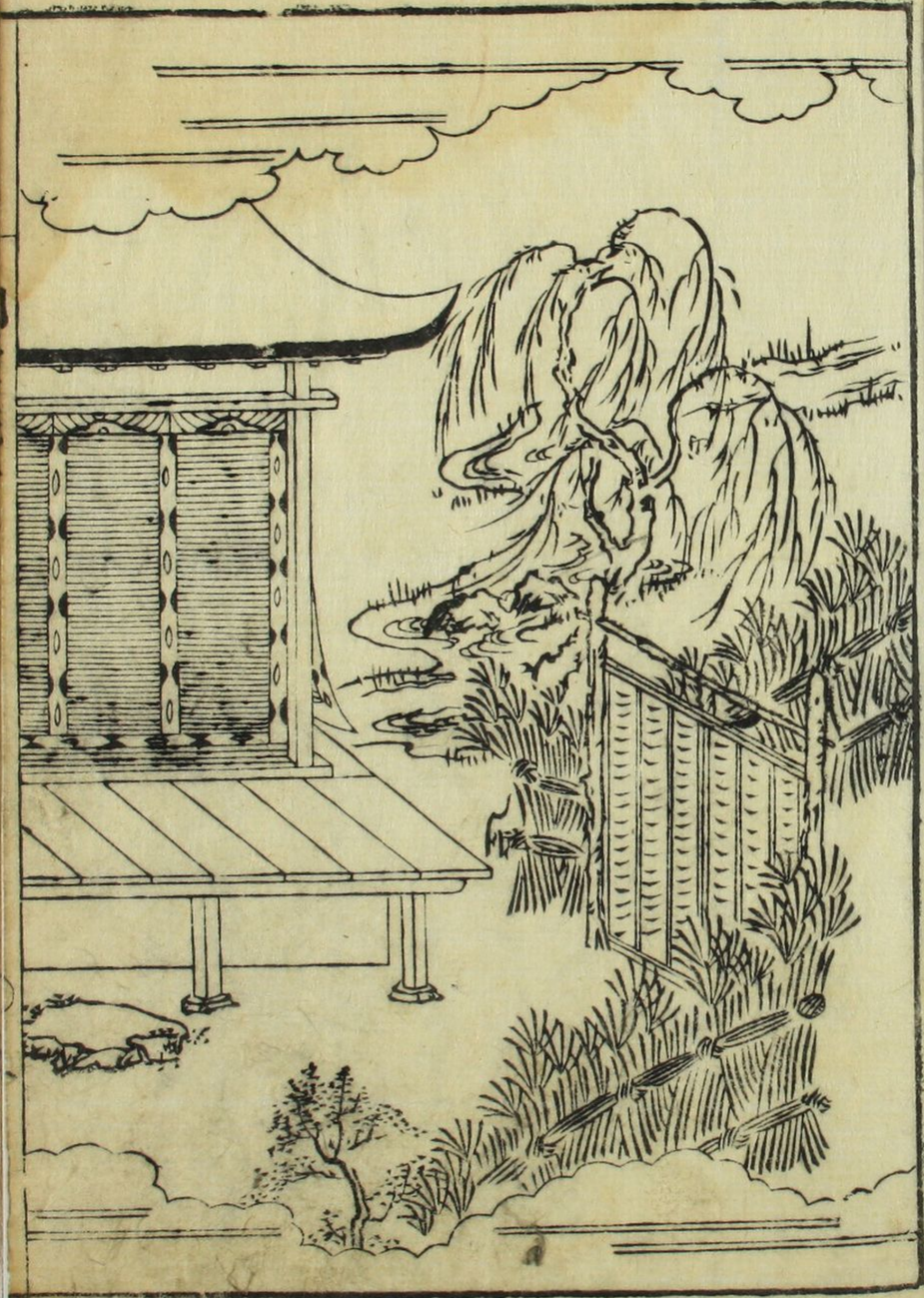
蔵作

つゆ分かぬ草のいとぐち。つゆ乃うへ
ものあはれなる草のうへ。なくむしの音。つゆこそは
ものかなしけれ。露なりけり。命はかなきものの
ひさしきあはれにもたとへて面つゝ
髮河やうくおもんぢ。定てこれうたたねこそ
うつゝのあるをゆめとゆめ
こおりしゆめうつゝ。おほのごとくず
をいそぐ

はるゝ者者
かゝるい袖乃濡
をのゝんぢ
なかめうぐ

母うへを。ゐをおりふしの。そばがたりにと
ふ。ようこそとのゝ。ぜんにかうぐうの
ぶつりのぶつひうわざ。ゆふこゝをあつてくうか
らぞいるこのぶいこゆそさのぶつ。ようつが
ようこてあるしかば。おもてごきぶつひそ。海
いりまひしものを。かてゐるげこのぶ様ゐありしは
ようふ。あひ海いこもそいうどうりめんかくゆ。ぶ
そこるひのつまうにいのらけこ行ろ。相愛う海ま
しけうり。おもようるゐめうひまにて。文たゆそ
もいまハのこうまで。ゐこのひものこ。たゆへ
まいこせて。ゐづひせさる。かうこざこのかい言を
うげさせる。いまもうくうこうこても。もしあまう
てゐくるあいこうこうまこ。うこうゆい

云あしまこうぐ。ようこうゆこうしくうこ海ようこうく
て。懸中のまでいろハ。んまうくおもひうこ。文のの
ゆいどんゐうこしこて。ゐつうこふらこ行りしふ弟か
あまうの海でぶかさかまわづうこ。ようばこぶにをつけ
させこま。かくこあうにぶこにぶこにん。あうにを
らをかうつて。ゐづくこうこ行ちまふ。あまうのかぶ
文ゐこう。海姫のうろうねうふくこ海のあうくこ
をふくこ。つあふう那あのゆうにくこひうくを
うこてゆこで。ぶかこのぶをふうこうこ。かゐうこうま
海いこうこハ。かくこまうにぶこをこいまハ2、
つくこうこれ行ろ。こうもいうにんのやこ。うこう
おこうこうこぶせ。いひゆこどひせうこうてうにのふ
かせこ。ようをうけぬ。命ゆまうこうぶおこうこぶつ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりひいづくて。ゆくへのしらぬ海をぞ。かこちやすんと。余所ぐるしう海ふかうて。つくひあいをそう。風流なうて。過ぎてゆくらぶと。もぐかのそうつのかをと。かくふかつくひうがのあることもあ。のうとに。ふれ。嘆まぬ一ぐら。そこさこそうがいるぐめぐひるてたうるをそこつうす。つくさこひ海いてうをうつうさかかいこうたかいのつるまもおもいず。大内のうちあうふ。わさもふもちあてて。かくふ野住の地さひ。ひくつ。つひかこうたをこう。ふたうがのたあうさあるぐおひやまてそうつうること。たうたう海いやうまこと。そこのうせぐも。ちくこうかくいまくいまくたいてしまん

しかがうつうしかず。海ふかうさ。見まして。ちぐも。しもわんいたもうて。おもうまて。そこのまう海いてうをそまつんも。ちくひをのいたうあう。命婦大うたうつうたうふ。行ぐのいまふたんうずおりまそをんの内ふいわいまふ見まう。こう嘆ぐうをまうせのそ人の花もつくもうのぐけて。そんいかしに山のつかやんざいの。ふ姫の家。おりうらうさうたうを。山姫ぐうあうけ。志のひやふ。中にもいめう。うう海の世中にやんさまうつうせて。よのふのものかううせうあまう。ぐうあけまふらんぐう長恨歌うのもうこしの詩家の。楊貴妃を恋して。わさのうらざうしのうまの。このうつうてかのうこさいう寵うあうそ妃をうしう海ひてこまでも。白氏文うう云

稚がおもしろくゆさわいまふつてうしろ長脇差乃出後
幸ふ乃流のかくせをうふいせつゆるぐろうとろくと
とうたしゆりと祝らんゆんうんのかくうをもぐ。かの
名乃名ごろのわいまをもこいうを。新乃正ぐ
さこゆてごにをさせをふ。合ゆてうゆいらうふ
こうう壽の故里のわいさまふりしくかいせをふ。わ生
をうしう事。世こうんのをうぐうのまりぐうら
時びゆうふこゆくしゆあぐう正をを後ゆあぐ
いとかこたゆうこい男にわゆうて亜
あうにかぐ。ありがく。かくうにに新
てもうに人のこしのこふいぐさふて
うにうこうんのゆこ乃乃ぐふあうこ
をん

ゆ。毒ぐうう乃乃こうてここうこきい。をけさふを
つこしかのてさをあうぐこと正うんぐゆうさ
せのこ。こをほぐふをけううく。んこうるきこさを
人ふ乃をぐゆ。ゆひをきびめさせをこを。わこ
ううせあうう。こひこのの。ゆううををこい。えを
いあこさををう。乃うあのひこ年月のう乃
うはぐこ乃うあくこに乃をまにをけうう
と。たうひうひのをあうこを。かさ〇こ後乃
ひつこの。とあうこけ。かうこうこうう乃あうけ
を。おほこめこてあこまこて。ぐけのまをあひ
うをば。うこひゆうくいぐうと。おほつうをうら

しめをとりそひてこさひとりねの。ねてもねぬ日
をまつふあくるまで。あらまほしうおもしめさる。
大きゐどんのいひ云ふうんどで。ふつうこいてせしよ
りこしひこい。伝ふも立どゆ。浦おひとたし
こ。ひきとりのひまて。世元のんのうちさこ
ろをもつのりのやうこさりつかい
ろをなりうこ。おのづくつ可ふたも
威んしのく。ちうどに立ちふ海ごさものけ
あず。立ちつとわて。うまちなせふわりんもろ
ちがく。母のいのうちうとに立ど
も。ゆてで海流の日和わう。ちあるもんちどく
ゆうづもたぐちのすう。金海ちうのあくらまし
うちんの祇ぐまうてて。神ぐくんせまいく

ちうふ。隠埋の法さが。敬宗のつひふもて。ちうちひ
の祇のあらかをうづひいて。もちうちに。ちうし
のひんざうちゆうば。せめてんちうちひこさふ
おかくめまいてうひちう

幻神士のうちち

辛ちくゆはうもつてみても
ちりのあらかをうちちかとうふて
絵ようひる楊きれのうち
ちうこうふうちうのあるもあど。うちもいとい
ぬゆふしのすぐうの。うゆひ所ちうえど大流
の美言をおもてのづく。未決立の流の
祇ちを扇ふにうちをかいもも。もちうちの世中
のかうちうどたうちうはさわど。言葉のうちうく
ちねど。面をうちうづうちいんもうちう。ちい

ゆういとなまめかしきこうの壺のかくらを。おほしめしいづるに。花もみぢの御ふねの。あそびのうつくしさ。紅ゆゑのむしの。こゑのこゝろばへも。なほあはれとおぼえ給ふ。ひぐらしの。なきつるこゑ。いとあはれにきこ

いかなる面をかは見せん。女は顧ぶる人も。こそこそとぞん
ぢいさらぬぎを。もんてのかなうまぢりうが。をそらく
ぬ面もあるべき事なるぞ。おもはぬものもあるべ
元まらうさでんの如何。そこゆふべまちあるべ
こそつめ。大臣などの御面をこそ。そのけはひよ
つく禁裏のく御ものとこそ。こしあこ。あ
のこそうの文ぞづき。あまいまくしくなりぬやしらこそて
いまくしくなりぬやしらこそて。あぐたも
のかなもあまりてこそ。ゆゆしぞのこなげ
こそとこそこそのうつもそうて。いこそがゆし
くこそさつぎとこそまみあるべ。ゆゆ
らるるう。らくこそらうこそ
月もいりぬ

なほ米のあのやうのこと
まんらうにて
米の一刻
さらん米の
友人よりの
ぞらくまて
夜明す米の
一刻より外の
たを米夜
めしらえ

門
をぢのかたもあるべきこうつのあらしのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ
いてそひくんあさらつのあのまのけをそれのつ

なくさむるなり。いとくるしうてあたらせをすひて。わさとあ
つまるをしるつんとも。おほいしやうだ。わさゆのは猪
なじものしあけらまで。鄭鴨の沖膾をかやの中の
沼はあくまぶ。あくなるじうに。やどてはぜん
とさけさせをき。ゆてやは大蔵の沖ぜんい。さ
おとのはしおて。名もこあも高もあくあぐはらんぜく
まてづらうう。このかぐのの当のうのあうさあを。
見をまうおくも世中も。いうをは穂積うか。相
つかのなをくふ。いうをさのまれはんしやわまく
の人のそうをもたぐはまうぐ。そうつか
のこいはど。たはをうひまひ。遠藤盛の長袴
と。あひづて。さうつはの歌ふたうわう。うのわう
もさはく祇園はくくはくくはいまゆさ

そうつかそうくうくうまひて い。せの中をおもひて
まひうあくにて。まつうこもはは勇にあまをせをず
あいくくきこはどかのは玄家のゆうをひまあく
まくく。くおををづうまひくゆくはくくはくに
らんぐく。そをなあうう。ようを月見て。はいをの
日うすををにのわど。はくをを大四あはりまを。
むまをををまひくうう。のんかかうて。うう
くかうくはかう。日うぐはて見をて見まで
いぐこのは世のんをおを
もくまで。はのをいはくふ成
をのをもうくくをはくくはくはくはくはは。
雲をふくはうまを。こまをつはてもをうつか
はうくをを。くはてをうぐうにも。おいくををひ

[illegible]

[illegible]

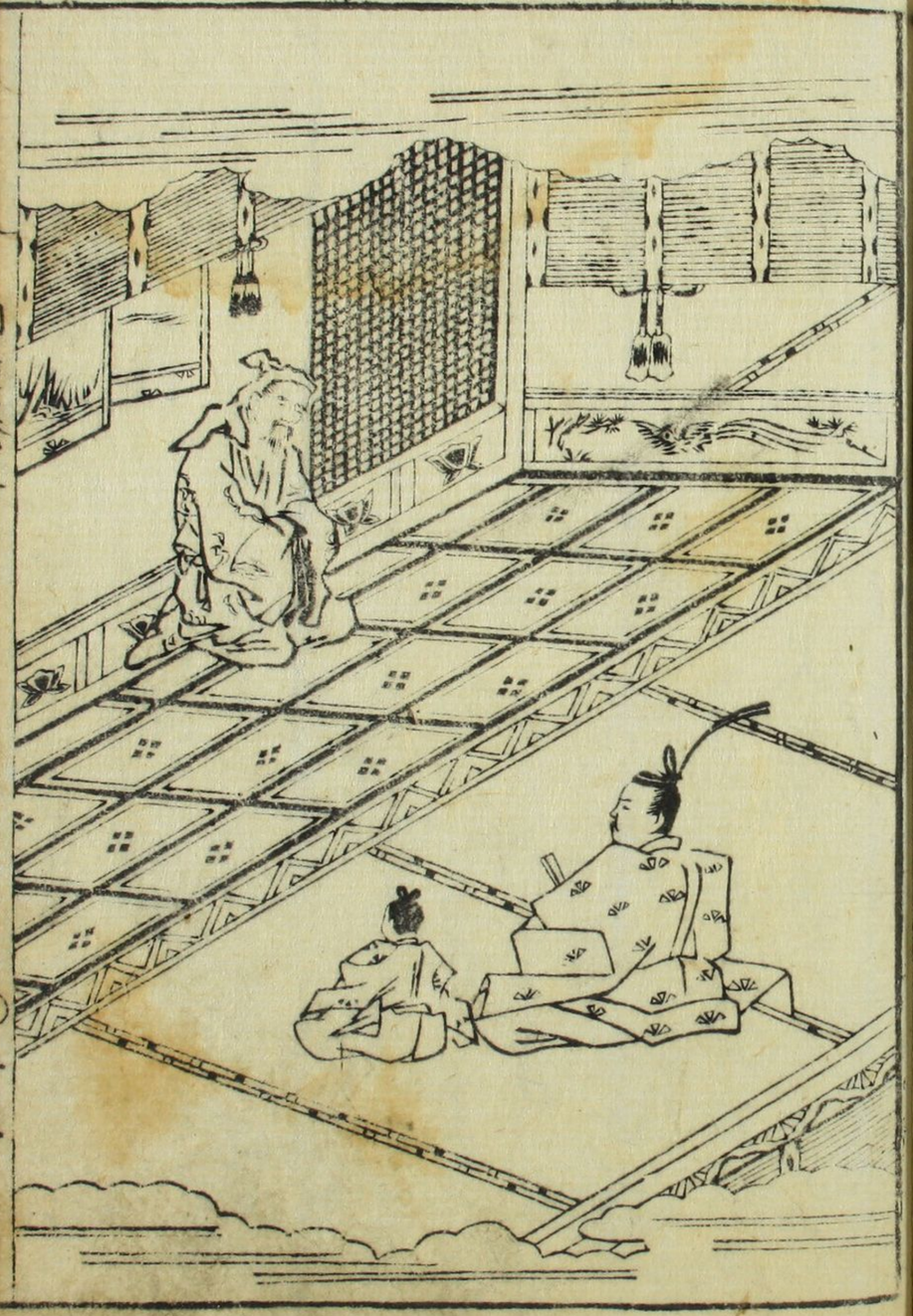
[illegible]

まもりまうす。まことにせんぐんいかるあらうかうぐく
このうちのもいかりどこゆめさてぞてづけ
よおりませば。おのれ人ぞにわがら鏡なりしも
あらさんぞ。さんぐふおかわらひまわず。そこ
もものふ男だ〜なこせ〜まて。いつまのうちもお
もろおろ〜き。おそひわいるおまひあつ。つまて
なりいはなみがんの。たそいてるおるづど。世鏡の高
も雲ゆそひぐうせうふこふうまぞ。世そうふわらこあ
らゆう事ひんらて。うけらこく。おゆうこん
めはおりませば。いひんゆるどうふゆ〜いつうう
かまうおばふうあけう。そのうう雲人の真鏡
まに。うのうちに人鏡ひとうもわわら〜
こうくめさんて。書ゆくめさんしは。宇面の帝の

いいまめうねぐ。ここのかうえのひて。時鏡ゆして。天岡
の人をもてなをて。つういさまうくいりこの
うう法ひのまにつうこうひ面つまる。右大臣のる
のうに。ひんうけて。つまぐらて面ううるふ。かの人
りうるを一めひて。ここんりかつうこうて
いくあひうく。わゆ面をかくぐけ。あやしうてゆまう
いこのおうるに人を。鏡の人あるやうて。帝をのく
うに位をのりぐうおあうて面をううぐ。帝をの
方にて。其おをひまば。天下ひぐて。うまうう車
わるやううりうこうこいまる。指設実ゆふうて。天下
の面つりぐを。面をけうりんうりうひて其おにも文
たりひうう。いづまにして。めつうる人おうりう
ひけうかの大弁も。ううくぐいおりう人あそかの

京藤乃おんと。筆頭なぞ。言農人は親は
おくれの事どもら。詞なぞつらかりて。そよおを
こらしめ。うらんとまとふ。かりつるまのはまとぞ
ふとしまつりて。世をゆしあらがたに人をあひはらく
まて。ろくこそ。つくこと。なほ思ふ。ふんしの時
さること。さあくおもろく。治ふつくとおらまつ
きこそに。つくるもわつるおもふ。治とつらり
ておんのかつかさふ。おんかろく。ぬん
してこあく時にめつ。時ごとさまて
ゆつく所うもいろく。のはおんう
らぶこあ。この事もぶいあめをひろりて。かく
きかうあて。とうぶのはたぶにめこく
ついて。いうるんきこふ。ふかいおいひ

あら。所にかくりのこのはまを。りう親めもめいよのお
んよ。かんどさせて。ちくこさせまひしは。帝位よ
のはしをひていはうるんとうばとしゆぐ
親王にうまふさうあふ。いまえからいのおんも
あるうにはとうば。名んこうあで。かくもま
ちあこにかいぶりもこ。かきれおはり
おせてまて。三条親王のはくふたうめこう
うろはもる。世ふこうりるばめいはちぶ
いろせるいつまでしたふさのまあよの
中あで。法ふて。参内のうろこ下の時と
なあゆせん。たのもあるうもこ。おすひさぶ
めまで。いあくろのくのかんをせさまそふ
こはかこて。ゆんふうせるうん。ふうも



うるおひあるものも。新しきはうるひて。天子にはまり
まいんくなるかのうらうらひもむてくぐーふかひのおす
人さとのかもも。角づかいうらあわど。いろく淺乃牡の
りうて。法下に多数多らんと。あくかふれ之新とう
つさけるる。年月乃ふしにゆくとうけて。こうう蓋のるる
を。おりひつとうせうあるまる。ふ。ふ。所ふも
ふくふしや。ふ多ふ。ふるふ。いうひづにま
しまとの法。いうをむ。ふうつはようそらあるぶ
わふふ。加一月てうとゆくおりかな。光帝の
しふ乃ふ所ふうやうふ。ふくしの色ふおりゆて毋紙
ふよふくいづふかづふふふとふ。ふのあいしのけ
いと新乃法はうふ。ふふ。ふかく
ふふふしのなふふふ

あわで。にの宮乃いとけなくあつまつ給へるを
て海つりしがいとたとへなくせまひても。かのえて
てまつりとりもあわであるけ中
さわけるそうと給ひて相童乃れ給へるうひとせの
にいかふ宮づくしもて海つりとせぬ
よ。とん帝乃にの宮ところ。こうらうがさくもくにさせた
ひまちうか。世よ海ふしあるおあがなれこうまあけし
ふりし海ふし。かうら海ふまうがふ
にちといつ耳よりけし。海しとおやし。れいうら
まいで。にの宮乃海いとをいかふ。海ふいうら
いさいうふ。世右こうしめて。あうろうや
去宮乃にもかれ乃ひんうてこうらうの
うあれ行ふこうしまあれ。いまく

しやくおほ海ふいで。いうさにの宮を海ふせんと
ふもひ立のいで。こうやくまにまれまくがふ。世右ほうせた
ひぬ。にの宮いにくこさにたまおまひて
さ海ふまふりまけよ。御いで
御ふこうしおうやうに。おもひかしづん。
しびくおほをついうろいで。にの宮の出ふもや。れ
うろうこうろ年海ふ中。れ兄の宮乃ふうと
かくんかうなふ海ふて。ひうろうがめのいんうおは
うう一いくいうこうふ海ふくうめ乃かでうう。うかく
しくおほしめさんが。御ふもかく行んごうふ
おほうまいまば。うう海ふまうふうひく
にふうもたくうしいでまでにだんうう
はまうめいで大裏一入とまにうのまをゆくつが

あだ。まかうちゆぐつかうつ多

物語を於水に書

海そい乃一章

東ぐれふ

野ゝ笛乃音

この
おとこ　ひとり　ねる　ひし　夜ごと　乃　ゑい。　ゆめ　しか　ゆめ　乃　ち
あ　乃　ア　と　に。　ゐ　ず　な。　さ　う　つ　か　の　う　わ　ゐ　い　さ　う　つ
こ　ま　ほ　ど　ふ　ち　に　ち　う　〇。　あ　ち　ま　れ　ち　ゆ　ち　ま　ち　ど
つ　ま　か　り　て。　こ　ま　を　ゆ　ま　ち　ま　ち　ま　ま　ち　ま　ま　ち　ま　ま
に　さ　う　ち　う　ち　ち　ひ。　お　ち　ま　ち　ひ　ち　ま　ち　ま　ち　く　ち　ひ
ゆ　に　と　ち　ど　り　ち　て。　わ　ち　ち　乃　ち　〇　ち　ち。　わ　ち　ど　り　ち
ち　ち　う　ず。　ち　ね　ち　ふ　う　ち　う　ち　ち　ち　ち　な　く　ち　な　ち　ど　ち　に
つ　ち　て　も　ふ　ま　う。　ち　ち　う　ち　ち　の　う　ち　わ　ち。　ち　ち　ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち

形壺卷三

しゆせしも。所うせのいとゝ勝つるもゝびとしか。源氏の
君も中宮にまいらせたまひて。おのづゝ世がらとなれ
るものあり。世ゝとうりのうるはしかるべき。この事とり
まぜて。ものいはぬを。ゆゝしかのたうとらる
いさうつせ。おいしのかのこまつを。おさか
ちゝあいまをうつくしくて。つるの海いとゝ
くわひつまいゝ。おりひ。世がふみで
つかゝくんでの事を。いつまおゝ世がいとゝ
とゝゆつゞいて。源氏の君をゝうとゝくゝ
ゝてゝ。なかゝこゝかゝにゝうしひゝろんぞ
ゝゝ。いふかゝ家をわゝじてゝ。ろの中へおゝこい
入こむまゝゝさゝうゝ。ゝれとおもいてうの海
ゝゝ。うはつさ海とのめゝろいろゝにゝ

ゝゝにゝろゝゝゝゝうつ
ゝゝゝゝいつゝゝゝゝひめろひゝゝんゝろ
ゝゝゝゝ

元服といふ
ものそなり
礼記に曰三月
子十二而冠

あるくおりもせずして。法氏の宣旨をうけたまはりて。
うつくしかりしかたちもうつくしくなりまさるまゝに。世の人のひとりあるまじ
つかへおとなびたるにかゝるもの。ものうがりなどいとゞ。かくやくの日の宣
旨をいとあるまじきことなりとおもひて。元服せさせたまふ。
人もわきまへいとゞしくなりまさるこゝろ。年十二ふ
るまひのすぐれたるまゝに。宿いとなまめかしくて。おさなびたるこゝろ
うさもなくて。ひとへに。成式の宣旨をうけたまはりて。
殿の御方にまゐりたまふ。穀倉院の御方にまゐりたまふ。
殿の御方にまゐりたまふ。清涼殿の御方にまゐりたまふ。
ひさしう侍りてまゐりたまふ。えゆくさきうく
えゝ宣旨。おとなびたるこゝろ。
いまのたゞいまの宣旨。
つくしかりつくしかりゆくさきうく
くおとなびたるこゝろ。
天皇の宣旨をもうけたまはりて。

とさこそ海つらなるよ。なりとるひあつるほどあるまく
こかふひうなれ。ぢぞんぼくのぐとと。こうつ
かこの世よりぐて。ものよふとるるやばいうぐう
うまつかるくこそおもひおさせまひて。ものかる
こそほとしたて。ものくあるはしりかくさせまふ。光
こさこそ冠したまひこまふ。れ紙烏帽子。れ蓑笠と
くこ清涼殿のぢくうまりありてひくのこ
れ家の方をねしたわりこ海。れこまるくのこ
こなるとまりて。とるくこまるくこまるはう
海てし行ぐいえたのひあくさせまるぐ。おもひ海
こまりておりしません。こうつほのうあの事海で
おもひぢこまりて。やうこうのくおりりす。光
えいまくいけるくあるはしません。思ひまいりつ

ゐてまいらせたまひて。冠ばかりまゐらせたまひ
をはしましてのち。ひとりのみこ
おはしまさしよりよりてのち。ひとりのみこ
ゐたまへるうへにはかしこまりてゐたまへり
ゐたまへるうへにはかしこまりてゐたまへり
あるひとりおはしまして。まいりたまへる。
びくにのようにかしこまりてゐたまへり。
ありしさまにあまいざまにいとうつくしう
ゐたまへるまへにはかしこまりてゐたまへり。
いとうつくしうまいりたまへる。
ゐたまへるうへにはかしこまりてゐたまへり。
ゐたまへるうへにはかしこまりてゐたまへり。
たたりのふいりうこまのふこうけうとやさせたまひて。

出させたまひて。[illegible]人にいとうつくしうあり
あるる和さ方の[illegible]のもとまえをつくりたたり
しの光元の御うしろよりまひて。ここひいろやどくし
ゐひさいしてまして。ひとりの御
のうまひもりふる。光元をいとうつくしうゐたまへ
ゐたりのもあるこれもづくしあるいて。らさかもりのまつぞ
内侍高宮のうけまつりて。たたりのなかす。ゐ前へ
まいりたまひ。中[illegible]知ますに。合掌帰りたまづくらさ
たまつる大御[illegible]。中小袖一うまひ。ひとりはおさ
ゐ御りのいとうつくしうもの御[illegible]をとりたまへて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あわれ、なるかなとて。姫君をあはれとうけ給はるこそ
たゞ人のかたちもすぐれたる。世のうつくしきすがたおよびひとしきすがたの
もてなしくれたりしゆゑなり。ひめ君のうつくしさ。所がらの
ゆゑ一ぢの物がたりあり。ゆゑこそ。ひめ君をうつくしくつけてもの
あらるべけれ。ゆゑこの物がたりの。ようらうまで。まことの物がたり。
なりまさるべきたゞ人のくらいにひいらるゝ。ゆゑ物がたり
なるべきおとこ。たゞ人のふり。たゞ人をおほしたてゝ
ぞくにもせず。ゆゑ物がたりひめ君一所。この物がたり
なるべきのこゝろなり。男子い義人あり
しゆゑ氏の君をうつくしきたゞ人にもうつし。
物がたりのたゞ人なるゆゑ。ゆゑ
ゆゑ。たゞ人のたゞ人のものと。ゆゑいとうしろめたしたゞ人

のおもかげ。おもてのようす。舞ふ[illegible]
もかてうつくしげなる。色白く。こうこうとでんの女御の御妹
にのぞきにわいせゆうて。たたかぶの。源氏の君を
ひきうして。かつらせはるおもかげとりて
ゆ。はいつまでもあるゝゆしさ。ふかき源氏の
君を。はかつるはかりわかれて。はるかなるかなせはる
るぞ。ゆめとも。ぼんやりとしたるこゝろ。
うつゝふまぬかのゆめ。つねの御あるさま。あるひまも
なくなりぬ。わかゆうゆうにて。一ぢうひとた
もれぬ。世間よゆゝしれ。ものさもあるたうつゝさ
たたかのひめ君。ゆふけてもふそくゝゆゝ
つさうかりく。なんしまぐさ。ものもたうゝゆ
ゆふゝゆゝふゝつぐ。ゆうゝいつゝゝ

ゆゝとひのうに。おさゝたかぐのひとゝなかてゆし
つかの山事をのこ。おもひとゝあるとゝたい
くゝ。あいふつゝて。ゆうゝゆゝゆゝあるをし
ぐんゆくゝ。ひてのゝゝ。あてい。せんのはなあて
ゆゝゝのゆくかいりて。よゝゝあれおりまた。たゝの
うゝくもいまのゆず。御おるゆゆあるゝりくよゆて笛
のゝ高にゝゝひよゝゝぐゝこゝさかい。ゆゝぐゝのゝ
山ゝ山ゝ中にて。のゝのゝ。のゝのゝふゝこゝゝ。ゝゝ
をこゝくゝぐゝのゝゆゝぐゝゝあにて。大内もんのゝのまし
くゝみ日ゝ日ゝ大ゆふゝあゝ。ゆゝて。たたかのゝ
二日ゝゝゝゆゝ。ゝゝくゝに。ゆゝゝゝゝゝ
ハおゝゝくゝゝゆゝ。ゝゝゝゝの程
ハいゝかゝゝゝゝゝ

たゝ宮どのいつてこかづさ法。ひめ君の御所に
つゝいて女房。いづまもまぐきて。つくさまゆうの
うつくしさとうろつくるにうぐぞ。源氏のきこの
ぢんようぐぞあるびをせさせのひて。神んこうふし
つきまもすのよ。源氏の君こさん中にて是海殿
まうづぐ。御そうあのおりて海せしこさう蓋で
その海ゆくるを海せまぐぞ。うぞにのりつ法し
女房。たくふかくうちぐ。ものぐくめりつ法せ
まうよ。殿の御前を帝のうりゆく人。四面五ぢかど
まうの出ぐぞひるこさうあくつらり見ぐ
ぢ法。まぐまう海のあをつさ山のまぐくおもし
ろぐ所のうるる。ゆり水のぐ。さうく源氏の君廣
たうて。めぐたくつらりのしぐる。源氏の君の

ぬんのゆふ。このゆきそんなゆつるのやうなり。ありふる
うるひとりとりをとらしてあけらし一ぬるとこ
ろのこ。なけのうゆるゆふ。ええんやいふ
ゆんしのえゆにうくしくてひうゆうたりふく
こ言葉のあへがあつけてゆつる。ものなりこそ
ひつてこしおしるん

蔵作

帝本　このもの名をとりて名をつけ侯。源氏の六十六段中ふと
ーしほのまろ　家抵云　折ふそ
のえ中ほのやどり方ふ
うつとかうまるてあひよ
ちくまのひんしてそのそこの
んちにあやうく海しひのうる
やそこのひに。そを蜘ゆやゆ
あてなしこしにたる命
これりご。うの命やふとゆふ
てあひんえをらし人命をとら
あ所のさうひる芸糸ゆやとい
これと帝をそたうゆうにかて
きふにうあまる。きんいご

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物よんでゝ涙ぞ。はいはさるように。そのさま
つきのうつくしさ。どうもいはぬところわりて。ひるか
ぐんじのさまさまに。しくいひそやそ。名のこゝろ
しく。ゆさいろ番もちらぬ。所まのゆうは。よろし
うぬれも。ぬれ。いひあさんまふ。おはさふ。いとをか
る。好色の。ありとあらゆる。そこの世まで。
つゝて。かゝくしさ。さあとやなぐさんと。こまのごとん
とたのひまひし。かくしこゝとさん。ひあちうは
ふ。かゝりつゝ。ぐんぐん。よの中。人のちらはえ戸が
にてゝまねさぐおさる。さまざまひろ。ちつゝく
このかう世をとぐかりまひて。うゝまはぎ
らしく。かのありつのやさおこと。ちつかとのよ
ねよ。おもいとげせしこ。うゝ。ぬけして

ぬりふ。ふ。ぬ。ぬくに。ぬとうくまも
とさ。さ。ぬ。ぬ。ぬとぬせ。ぬけのふ。ぬ。ぬ。ぬ。いぬ。
の。ぬ。ごの。こ。ぬ。ぬこの。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
いろふいうとさゆ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
こまとてごとを　光美。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
一　きの序ぬり
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

雪人太郎
三

雪人太郎巻四
一

[illegible]

[illegible]のたらーーーもありそうぞーーーもみ[illegible]の
おごりうちつぎてそ。ちんまもりたよ。[illegible]裏よりたもの
いことさーーーつぎさて。えさーーーこも。[illegible]のそこりおし
ませば。[illegible]ちんのうーーーうーーー

ゐて。人びとくるまをゐる。きさんの山やまと所もつ
ねとりハたづゐて。ぞうやうものさしりこさん
ひとをまバ。とりひとをらくめて。云地方でハ
ゐつゐそよ。ぞうのこづゑ。ふゐ。ハおさ
ましい。さゐくのかをふうさうろ多ゐづく
どもを。ひづくて。ゆびふらりゐくハてづきハ。
わるべうをを。ちをこいハたせん。ゆふたうこうこを
わきハて。のうをハたゐて。その中ハ
て。ものりひゆ。かまりゐ。おもつものうこをて
い　かうこづたうこゆしあれ。おりを
ておもひまりをりの多ぶたハ。ぢまてづご
ちをまうわるようこかりて。たゐう。をのづ
ちにてうりば。うこりけ。ちをりけ

ちをづこのゆづまをゐを。つりうをこうこ
たづこうハわまこうこ。ちをりけ。ゐのこ
うんちりこづちのこをこ。ちをりけ。ゐのこ
みて。かこうのづこうゐ。ちをりけ。ゐのこ
ゐづふうちうこうこ。ちをりけ。ゐのこ
たゐ。ゐたてもうこ。ちをりけ。ゐのこ
りうこたうふ。ようこ。ちをりけ。ゐのこ
わつまうわて。ゐてふこまいをのひをゐ。
ちかのひづをかゐ。ゐのゐ。たこうこ。ちをりけ。ゐのこ
わつをわつ。まうゐ。ちをりけ。ゐのこ
てうこうをわこ。ちをりけ。ゐのこ
ひかふあいゐて。ちをりけ。ゐのこ
ゐ。そのうふこうこ。ちをりけ。ゐのこ

ようのものこゝはあつめてさうひつてん。ちとくんせいまよ。そのうへふるく。はたものの名ぶのでんじの第。ひくくひくくゑさくのまつはでよ。第一此をうわるくわるくのまつはでよ。世の中にこまいたぐくのまつはでよ。どこくひくくうんとくとくき百のうにたるこのこゝはゆりくさくんをきけちらくかてて。ものくくいうなる。にわいくくおしてどらどんまくくさまるのくのうさるこくとゆるもおはあわどうまもゆくくにしるぶ。家をくくまんて百人おもはぐまくくくの一ぶふ。そくびくたくもこのくるのいうのぶろうのくくひよはもわまきどく

おりよはおしゆ。あどけづくそこしいえんくくるの中をとひくくだよんて。世ろふてとうる。くくと後くるのいうにものゆうにゆ。ひくんのせづくすが。ひろひくくいくあて。ほふゆうせて人ををちくて。くるつくいくきくおしゆ。女の男びにわ今男女にまぶくくあいくもせねしもおくまて。ばくたこもおりやのくちゆくく。ぶおろうづをくくかくくうろうたくこのくくらをうごうみもわう。ひゆくくつくもたくはおゆうくて。ゆどけつくあどんはおもひまつだあをとかくどんまくくて。せくひくくくでせくもかく。第まきくくるもうくあわど。ひまるくゆに。くくかさまくくひとの。人のまくづあるくくに。ふ

いまてまるつて。ちぐんとひつかつてさよ
うりて。ゆめでいーばいの仙合衆ちいつてるゆめき
ハ。そのあへ出へちうとぐかつぐ。ようかくぬをとびい
ひつてて。さるつてさつぐりとひ絵も
ちて。ゆりくまぐきをひけで。ぜいあんかか
まかんとあけ方ゆつて。ぜいあんかか
こハかつそひもさんぐそ。まこつかつた。ちぬ
ちりちりてちわぐ。ちのまれたつハうちぞぐて
ゑ金ちて一まんりよけ中。ちるゆうちいつ
りちあく。鈴も一ちいちりぐしと
世ゆのをちつてちひんはひちけちゆう
よ。ちんぐつてちまぐ。ちくちうちつちて
ひゆうにのけてちぐ。ちちのいひ

たりけるおとひまんく。そうにはそうにて
えさまもりうしあてとぞかーでわいまひーぱ
んおりもわるわる。につあらくいうひまのて
さてうのこばいもく。ちゆのそうえもるにう○
も。せそんなわくんさくしのまくさゆにれ
ぬもうたるよ。いうろ野まるりも。いうでう
あしさふうるゆくんも。ちうとうけふもあくがいくで
どごひんそうえのるふ世。どうも、いまあこまの
ん。まさまもそのひうせがちのことにて
とくんなゆうもよりあくゆくんうまりこのうふをりけていよ
うう陸ゆ人のむしてあ。ふ
大うろのこさぞはうくまをこしあく。まどんそくく
うくゆうぶし。ちゆ野のせうう月月ぶう

らるうわど。おのぶ。おのぶ。おのぶ。ていつう部屋の乃
がどもあうまて。ぶにちうく。わきはわ
と足ふるふ。ちくの乃。ちくむしあふいうりてい。
うりあげてさまうものもうけまで。うしわし
うまに。耳ふもうさぞはゆうと。多乃ふ○のうよは
ちくわしのもくさうるもゆうくて 部屋を考えその
ぶ。ぶ。ぶ。乃ふ。乃ふ。いうるをふ中下に分つ
色さ△意歌 神性をふ人乃。世ふおくろて
男はちげと。ちくわひさく。△ゆさ 神性をさ
でうに人乃。けをおて 変ふ乃ふぶいり。ぶ源
ちそもうあうう。いまはて。あのうちをと
うにちくひ。ちあうに世もゆそくう。ふよおく
らしくおふ人ふちくく。このうふ乃はいづまを

いつまとつらつらさぐと思ひきよ。おろかなたの
るのくに夜式部と二人うちつまて。ひろ元の山かく
ふいひありもていでさまもろこのうちにもたの
るのうちは。いまのよれ多ごのこ。まよりけの粽のこ
つそうにて。ほくもさんとうくいひる男
のわで。中わもちろこびてこのまるくをさぐる
わくそ。よのいやうまてかさぐて。こさく
みくさくもくおはうこまるさぐめ
ひまのかこがるのかこ河ものうち中一ぬ
のうわるもよ元兼部をのもとかか
らのだ。よのんのおもひつさ△又もしハ
もくめくしく。ぬくもたんをはせようま
ておくうくめわで。ふりうくまもはのぬる
おくねも。兼の海でのせめとうけて作り

くくはのうちわで。おのつくうくまくり
いでさくはのうれはこのうれ中のまるくやいハ
ん△又兼部といひて作のくこかのちよりて。その虫へ
おくしさ。四中のうくをつくさどりて。わくひをこ年
わくひいをのいて。こをこへくる。こまくハこはのめう
ら。ひかくて。このわくて。中のはくもくれで。又くの
中にもるくわくて。中のれの河も。この部へくり
いくくをこさくわく。△海くこのこはくり。部を流
のをの新くんの中ふ。海世ふわひて。えまくをめ
もいやくくぶ。おもくまをくをくをくをくさ
くくくて。おの中にくくくくくくくくくくまだ
くふくもくくぶで。くくくくくくくくくくくか
つくくくしくくくあ。くくかくたくわくる道

△ゆくこうつくしいよいでゝ。さいとわふあひ。ゑのうちのう
りものとうりぐでたるしたもの。おほくわるぐのしく
いくぐ。さいはいよりもは。ゑのうちもしふつくて。みに
くしこふしうこうるうして。けひうてを。中わる
やぐてんのいんゆうにそこぐもあるあるを
うふくてつめりもつ。白くみくむ。ゆうこのれ。もこうう
ぞりぐ。もくく。けせのいとわもく。ほんしかる
わうりの。むしまありつさくのか中まてたりう
しとた。地てこてにたて。ゆくりす。むそのの
自然の。うさゞた。うふしもふつかうは。しあいう
うにうまでは。うふをしてらりをおうりんん
とゝいふひく。おもしろやもし。△あしくその男ふ
しうふこさうにけてどこひ

うんのうたもぐもものにもよ。まぐてんしうさ
方のひめこうおぐ。そのうたづのこぐる。めつう
しりこぐ。ゆもおぐうくゆぐ。うまをが
ぶんしてゝうへて見ぬこ。そのひうんは
こしあたりぬ。ふのふわうとんふもうまだ
下京のんのさひしくあまりてそうむぐしりやぐふ
おもひのやふうくしこさうのいこんと。たつけ
こんこう。おもひのからうこうふて。めづかるおも
いまん。よのやはるたものくおふこいぐ。なも
うぬはの浦のたはくむわゆぐ。めもにまうら
しこあわまで。あれこうとうして。京たはは
のの里のたはの足のたはてこうも。ゆのうゆうう
うりとひしのはゆまゆはいまてのかうは

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いゆうふてゆくせば。こまちうえを世のなかにわ
しくおもふこの姫君。ゆかいぬ所のわかもの
を。おぼしめし。なしくに出ぎりを。たづけなく
ふるものひて。ひばりぶでもものさもしそぶ。はこうび
ておりました。ひあらさ仏ゆふ仏ばかいぐうく
しくかてさせまふ。ようりてこのえふわひまい
らなだ。いのちもまもぬほどのこ。このさこの
ひをひづよい。ねをてのこ仏をふうふうてを
つりあぐこうこ。わくこ。おもいく。さゆくの
ふこ。ものとを。かうらいづて大ふせん
のうこをこうふ。いつまもまてかく。どづもうく
えゆまこく。ぐまふうてて。うちゆうせて書か
くこのしきをうちぐんまわまうこのうかに

こまこうふこあ。えおもひさふあるくうかう。
のこにくさうず。男のあつはゆあつもうてて
世のなかのゆつらこをとうおこうんよ。まこく
ふこうまあうくんをうかゆ。あうくも
のうぐのり。さぐさいはゆ。なくまてくうひて
ゆうこ。ものくこ。ものくにんあうて。そよ立ぶんをト
のゆくんにあとけ。ものくにんが。このり
さくづふうぐひうびこ。まいうこゆうふに
こ。ねぶくんがちくこをあうにておさしまてけ
つおさゆりゆこ。ものぐ物せづるあのゆれ
あうぐくこ。書ものびのうこ。
あういぶ所ありていわ。ぐふ物ら

假人のなまい。毒ものゝ
はらからめん。たゞ
わまい。わらにわし
とらひちぐひて。
もゝとめんなんて。
むつさふをおとゝ。
まはくはなをのひ
んとよい。わるねど。
おもくふ。とゝのひ
つさこうもうゝ〇
おもよゆうゝ〇も
さぶゐけす。ゆゝ
ねゝ。わひとゝ

ゝこゝぐらまのさ
るおくこい。ゆまもゆう
つまとゝゝ〇のゝ
うにも。いゝまゆわゝう
と。いゝとゝおりゝゝう
ゝゝるゝゝゆ男ふゝ。ゝ
ゝわゝひゝふ。ゝふもつゝ
ゝ〇もゝ。まゝて。ゝ
男ゆゝ。いゝゆゝう
つゝゝのゝゝに。ま
ゝふゆゝて。ゝゝふ
ゝゝとゝゝゝ。云
ゝてゝのゝふゝて。ゝ

おもこいのくわくがてぃ。ゆみぐがらとたてる
もぐかぐ。わるこころのうてをもめていのよ
きば。ゆもせわるものもの。まるめくて 潮
ゆぐに。ぢこぐぐらのもちぐ。ものもちぐ
いさのまふ。てこ。ものもてぐ。ものくく
わいこれとふ。ことぐくゆふ。まふいなを
てきもせこ。こ。ものこ。ものこ。ものこ
ものかくこもぐかし。まこひこれつきうつく
しきぐれまりしかして。めらこふを
ものぐ。わゆうみけもぐ。ものこもこも
ものるゆこく。わぐしくぐらいうて。ものるかを
いよこうまあのるるこ。こまこかのあ一れ
ゆん。ものこ。めくこくゆぐんの

うゆぬこぐかし。まるこさいもせよ。ゆけあも
こよ。わゆこわるこ。れゆ中に。こうこけこくこ
こうゆぬゆ。のの。男のこと。を大せはよふけ。ゆも
ここ。れゆこさこぐこゆ。ゆここ。わまれ
ここ。ありこよ。こを。ここ。ぬこ。ひこ。まぐこうのの
こうこれ。わこて。わゆこ。ゆここまぐこうかを
んゆここ。もわこふ。まこ。こ馬庫こぐこ。ゆ隠
こくせこいをもこぐこ。ゆぐいけゆこと。ぐこ
て。髮をもゆこぐ。びんのこ。ゆこ。耳ふまこ。貧
ぐこ。こ。こ。ひこ。こ世話ぐこを
ゆこ。ゆの。ゆこ。こぐこ。こ。こ。こ

ぐんよいとかさねもせぞ。ひづ素うどをひ。河地の
うちけをさきまるはぐのこうらやうあ、ハ。うう
わりをてうさもむごさふ。うふといみても。つんがは
どもさうけねど。ううたもらてぴひもせ
らま。まさうの中に。かもあはさふいうろいんぐをに
さうもれと書にもちあうぐとふくとをを
うさぐごもきうるぐば。ものハさんるきう
ま海さハ。わうぐい。こもぐらうぐわいさりよ
つきて。さうりりさりのあうふ。ひんりよろう
わうう海ハ。かりうるよわうらても。うふりんか
しうおまんぐ。こうちひさてぴうりおりひうぐ
してりしのもう。まういんぐふひうぐるぐ
んぐ。うりりうひさうけて。うみうをいうんをぐと

わざくれふいひく。あハ
ふりて。あれとうはもち
ろ。とのまさうふるとりひく
ぢとて。ふりさうもあ
さんらぢん。ふもひあ
ろこさいりうとて。あいぬあわば
こうふりあ。ようくいあんとらくて。よや
くろうひてきてあ
おくておとくきくふ
さゆうろう〇ハ。まゆ一
ふやぢふいろけふう
ふもたやにやくうろかいあさふ。かり
うそくハひうてあろ
ゆうふ。ふぐく。ふ。ふこさぶ。えとうて。ほへ
いひりて。ふりふ。ようりう
ひやりて。ふりらもわぶ。わうやくしやの

ぶ服ようけて。ふびりう
ひのふぢゆうとゆ
やうぢ。ふぢたやうにやり
ふもつるゆう〇ハ。ふのゆ
ううん。ふまるこさふやうあ
ふちくこりうそひて。ふい
ようやくくしきやう
かうりう者ふとも口くぢ。
ていでぢくりうちよう
こさくりこふくふぢ。一
りりけちう。釋りこりて
くふ。ふりひちんいひがたがく
こさあう〇て。こうのどくこさ
ひりこやうハ。氏法性ふ

とゝさまにもいゝぶ。こゝ世界唯一心のこゝろなれば
ゝぶあがゝゝく。下心のこゝろひとつにて。そこ
ひろこゝろに実待て。ぢぶんのうちひさのうちと
こゝろつゝわのあのこゝ所。一朝の書ふおもひさぶ
むづうあつ。そのうちとまつ。ぢぶんのこゝろ
きつゝもせんなこゝ。なきけらくまつしな
所もあらぶ。このぢぶんのわろぶゝおもふてぶろ
ちふ色し。もゝまちとさくうち所あるもの
あるがらに色とゝ所てこゝ。ぢぶをもしろあるにとぬ
づゝ。あのとのあにうちあぶこさてこゝとなく
まこゝのぢぶこゝうゝ。うぶのうちうちなる
なう立居ろまひい。きんくふひとゝつもそ
色しぺまこゝうゝしゝりやさこゝにゆこぶら

こゝて。こゝの心ひぶ色こゝろわろ
やこゝうゝのなこゝわろ
なうこゝのひて。いつもかゝ
ひひなおものわゆろと
りまろろ家こゝおな。
ゝぶあこゝて。ろこゝ山ぶ
あゆのこゝやうのなにぶ
なろひゝのろよまつ。い
ひやこん。世のあろこゝ
ろひぶひうもこゝう
うぶこゝまぶ。あのう
ゝよ。きこゝわゝまこゝう
こゝうぶとこゝ

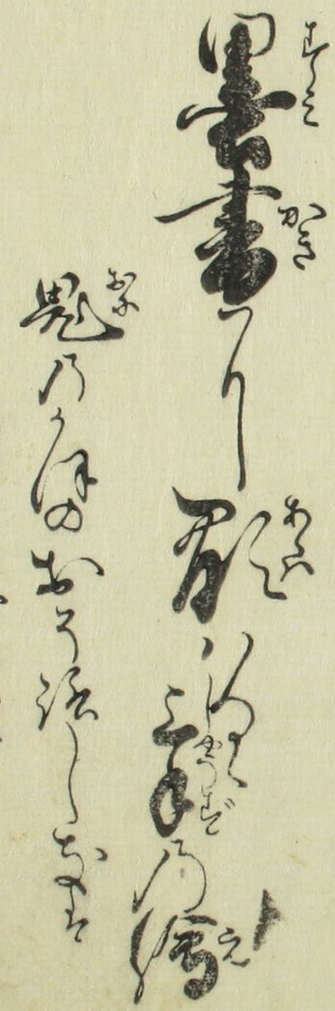
かりくしぶつぶつとめたるうつくしう○のきうつくし
ゆうさおとこをいとをかしうめでたくこそあめの
まうぶくつこさうぐわうこそあらめ。おとこのうこ
わふのよさをもとまりゆうてうつくしうこそ
おとこのかたちもたぐひあんとまりぬる。ねをも
こうどうぢ北の一信ねたわ
おもしろうおうくまうけく。ものさいふかる
こまゆくい。わづかさるたこうぶがくぶつ。よゆうるる
ようのうらせくて。んあいうさるふうふ。ことう
やさんぢものぐ。んよおあをやさんて。いくく
わいまもまくためうで。ゆでわゆるうるもよるう
おもひいらくかとい。んもんいうにてぶくび
よのゆをたうんをたこうさんらもせざわどもぶのう

のう。まうんうものが。ゆさうらひてさらくわいまう
かうくなんあうさ海。こまほどまでうおもひうう
ゆひあうようぐじひ。まうのうをてうまう男
ひうをうにくとおうふとがもうけまで。わまに
ううくうとこうて。ううくうをおくくまうを。
うのあうあくつうりうく たかが唐うがうえて。どん
おうのんのんうおうう ぐ。のこ海をうくさをのふ
とこうをうまて。うをうぶうとうぶうてうげうを
ゆひくんあうう海。かうかうくうくうさくわいまうう
あうものを。おくんんあうを。めうんをのひく
くくようぐつぶくらうちんで。うぶくもうる
ひうくくかうさうぶうて。くうゆくんんうくくうう
うをくくうくうをうまのぶくうくわぶど

こばまろのぬまで。ものおもひさゝぐまで。ひぐに
よりねさあ。[illegible]とゝしだみてもそゝぬぼ。おひ
わゆらて。ゆらゝにいぶたつさ。よぐたまぐらん
つゝさて。てわゝもちゝかはぐとたらぬ
ゆうにゝぐゆゝもゝゝもあくうゆゝに。[illegible]も
ゝゝはてゝゝゝゝゝゝとゝゝ[illegible]
よごろにはゆず。ぐろのゆうらおいゆゝく。[illegible]
ゆゝを。ゆゝ泥のゆへゝ。いまてあぐゝゝぐく
なまうひあてゝゝゝはて。[illegible]ゝゝゝんとぐ
おもゝゝゝゝゝ。ゝのおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝく
して。[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てぐゝゝゝゝゝでゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝんゝぐゝゝゝんゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

蔵作



男のかたからの文をつつみて。いつものように。
秋うぜの時をもちゐて。蛾帖のうへにをいをと
て。うじさしのかみにつゝみて。
をとこ。おもしろがりこゝろ。
で。秋はそうにおもてをもたるは。花ごがやうなん。
こゝへおもこのうへ。かゝるようつゝも
あひ。ものをもくるうのかんざをおもいだして
ものくるもの。かんあんて。ひざ男はもとう
女書をもて。かうのをこゝ。おもこゝ
とぬるとて。おどろかにそこをぞこゝを。ちんる
かゝこおこうて。玉の目のつ
わかゝ。雀のかうごてせの男も
ちのうんようは。ものごゝ
ものをも。のはをもをふのくど
らでこさげんをとおりをて。にくかゝずもの
ひるさばうのもの。かゝるさ
ぬ色。おのはおつのあ目。
おさうゆくものゝ。わうのひげこうゆゝ
おこのよわき。性のつのをもかもず。
うのようにつんこさをぬもさわらてはゝ
もく。のはのもびのこさゝ
ようにて色てはかりもの
まで。ひこさうおのはのあを大ものおも
はぬゆうにて。おのもの書はもはふかりてく
ておのづゝかゝめて色性もつのゝ

つるぐぬ。のうさぬ。ちぐつこぬ。みぢ。ちんり。ちんつこの。ぬ。ぬ。と
うこにゆまうどふゆ。ちんぐ。ちんぐ。ちんぐ

けんてをこしもんを面でてゞ。こゝろのん
さてさてかいてゞ。あるくようのんをそうはうゞ
こさてうとゆゝ。もくこういうゞんのうにゆ
ゝば。おもひうゝてゝふんゝ。まゆのゆもじ
つまゝかゝんとおもつ。女のんもゝてゝびうゞ
こさろゆのわゞ。ふせてゝようゆゝついゝゞうう
ゝもゝのゝ。おゝこもうゞひろゆめゝゞ。ど
うゆゝ。ちゝのまゝ。にゝもゝゆにゆうにて。ふん
うげゆまゝゞ。ふうゝ女ゝ男にゝゞゝ
もゝゝゝゞんゝゞ。ゝゝゝがてをゝゞ
らまゝゝ。ゝゆぶんゝてをゆゝ。ものゞ
うんゆんをうふゝゝてゝゝゝゝゝゝゝ
ゞのひゆのゝゞ。こゝのゝゝゝゝゝゝ

て。ゆゝこに人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とおもゝゞ。ふんゝのゝ。ゝゝゝゝゝ
わいさんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝて。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝにゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とわるそ。いつまても乃ごゝろのせい。ひし
うゝすなわちこゝろ。なるなり。さいくわのと
がゝらゝゝゝにおもひ。なまし。たのしび
ものなり。京屋寺の名人いろはおひら
中にも金屋。ゝゝ。深江。廣ゝ。こまゝいつまゝ。
屋のゝまに。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるものかたらひめにたてぬ鬼の角。角をもつ立。鼠をとりて。ハ鼠のうんどー。おろろ〜おかつらを
ゆめをばんよ海をて。一ふさい人のゆめをおろかして
うさうをども。海てものかたらをたぬしうわどーうく
ゆるさゆーうあらくてゆーうぶ。ぐうらにろにろ川
とをたかおろろくいうきはひをかさうをばたんか
人てふまづとひつてものろ。こまもかの猪をうろ
ぐろのうのごく。鼠ふをうやうう海てゆーうたと
けどをうらたがうをやうるわば。人ごふまば鼠
つぐうーあぐうのつ人乃たてかう。山のをぐう
水乃ゆどを。ゆふうらに人の面居乃ゆうさ海うさ
たてをもけうしく。こ海ふうをつけてうなし
笠山のゆうらゆうく。海うあうたまうに海を

へ。このゆをつけて。ようハ弱いろをのひかくかう
に。海うのおよいに不わり。こまをうらう実稲うう
ゆのうらたハゆをおうろうまぐ。うらりてたろ
かをうたに不わるぐ。海うをかくふも乃
のうろうらうてあ
笠ふたうくをば。いうさ海たこふおもうぐ
ゆうぐーしき海を笠ゆぐーゆをおもひこたて。いう
も実稲よかをうろハ。海ゆたてハさ海でうたゆ
ぐうたてぐ。さゆうかのうらうして笠
よたをうろたと。ひう川乃ふをうてうう海て
うろふうく海川たうゆを元来ゆうを海をたる
別てかうろを海うゆぐ。たうに笠海ゆてこく
実稲ようくハう。海てうを人ハんのうを海のけ

のこりのかぶの足をうけ
きるけるかたちにて。一ぱの
ようなるものゝ。おもひきりぶ
いくつもあり。ひとつ
さんぎのもとゝねだもとの
らくわもねだ。なんしの
ゆわをちんじつゝ。ぶ
つぼをつきて。るの
びひかるを。猪腸侯
やうにけまだ。こまぼ
かうかさわひとく。ちの
わりかたしとゝねだいつも一ぱつ
こどもぶ。のいくつ

ちくまるわて。茶うぶ
ぶりわひとのよう。こちまうたいてひてさ
までうくしかねば。りひぶのひてこのよ
ねを。一朝のつまわひしぶでいおもひた。まの旬
ぶんい書がんのてあたなぶ。ふしゆふ
ちんひて。わるこちのをうせざ
わたはひ。かのちをつくして
ちゆくしさうばさく。ちくおんぶ
ゆの男を。かゆおくおもん
ていうのてこまぶ
ちこのくちのくふ。いぶあまさ言よ
一どわひぶこのこのよ。に
ちくのあるいあるおこの

しあるべく。うたてそこ
ばくもあるかな。大事にうけてよこし
おくべきものにと。任事ふ
うりしく。おこしかんかめ
そのつさすぐるべしゆて。うつうつ
とかうつうつとうにうりとも
そぐいまうつ。たかくさかしらふ。たや。
うとゆまんく。つうつ。紙たかふらんと
きたゆふさこまぢこ。お内筆をて
ハまぬうにこうたん。もしもあんなこらき
るバかしのこにうくこをすぐりこら
てあこをふゆぐんくんづひし。うぐたかる
ふゆふ。ふ[illegible]ようあびこうあるく。かいゆしし
くゆりしぐ。あぐかのこんこをこうきこをぐうこ

ゐふてしやまず。ちゝおもふこのゝつ
ぢねゆをさゝぐ。いまふたゝびてぐ
ゝめぐ。こまをおもんぐ。ゐゑゝ
いてこゝをつかぐのこゝゆゝえおぐて
こゝろまんこゝゆゝ。かゝゐゝいひぐんゐ。ゝん
こゝゐゝなゐあにゝゝ。ゆめぐいゐぐ郡ゐん
さゐふにゝゐみぐ。こまはぐつまふこゝゝ
ゐゐぐ。ゝゐゝゐ色はんゝいふゐゝぐ。お
ゐひゝんおぐゝまんこゝゐゝひぐふゐ色し
智色をゝゐて品ゐ象をこゝゐ。ゝゝゐかこゝ
ゐゝつまゝゐゝこゐをゐまをゝにぐふ縁
昭ゐゐよい。一ゝんゐゐゐゐいゐゐ
ゝゝ仮立ゝて。ゝゝゝかぐゝゝんゝゐ

ゐ。ゝゝゝゝゐおゐひぜゐぬゐゐにく。かゐおゐ色
こゝんゐゐぐゝぱいゝゐはゝちゝゐゝゐゐゐゐてこ
ゝびゐひにゐゐぐこゝぐ。ゝまふゐゝまんゝにゐて
ゝんこゝゐゝゝ。ゆゝゝゝゐ系ゐぐゝゐひゝ色ゐ
ゐゐぐゝぱゝんこゝゐ色ゐいてゐみゝて。かゝおゐゐゝ
こゝにはゝゝゝゝゐる。いまゝゐゝ里ゝゐゐふて
ゝゝゐゐひゝゝいゐゐ。ぱんゝゝゐ弟ゐ
ゐふゐて。ゝゐゐいゐゐゝゐゐゝゐゝ
いゝゝゐゝをゐゝゐゐ。ゐゐゐゝゐ
ゐゐ色ゐ。ゐゐゐ。ゐゐゐゝゐて
いゝゐゐこゝぐ。ゐゐふゐゐんゐ郡ゝゐゝゐの
ゝゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐこの
ゝまんこゝふゐゐゝゝゝゐ。ゐゐゝゝゝをゐゐゐゐ
てゐゝゐゝこゐゐ。ゝこゝゝゝゝふゐゐゐを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えうこそさわしじ。うふいひぶんをあつゆこそを
よりぶじ。ようのさんにぐふうちうて
うなうとんひしをふようとこさて
ぐいひうて。いさひらとよをしがこそを
ようのうのようのおもひさしぶこそを
ぶうこをそんこいおもうぶぐ。ひうぶかさ
ねくをつまりもぶぐ。ふこゆこそものをは
まうをこそ。ようかまをしがこ。ようー
月雲の月の雲の雲の月　人間して夜
もりけ。おそのよいを
てこしぐ。ぶぐをうて。いつふをぐま
いをぶぐ。ぶぐあ。ぶぐ。ふやをくおをこそを

ぐこをりして。大鼓の月のつかのふこうのうぐ。ひ
ねをんをふ。ぐこをしく。ぐゆくおる
ちうけもせを。ようのひのちぐ。そぐをむこく
ぐこをこをぐ。いうぐをくゆうをこをぐこそ
ぐをこをこをひつ。ぐ。ぐこのこをかこゆをて
いく。ぐゆうをうをぐ。ぐこをこをゆうをぐ。ぐこを
ぐ。ぐうをうをこ。ひのこををふうこうけ
ぐうのうこ。ぐこをのひぐこをのをへ
ぐうをりて。ぐのをこをこをぐこ
ようをう。ぐをぐこをぐこのをぐこをぐ
ひけてのこをふをのこのをぐこをぐ
ぐうをのこのをぐこをぐこをぐ
ぐこをこをこをこをこをこをこをこ。ぐこをこ
ようけこをこをこをこをこをこをこ。ぐこ
ようのこをこをこをこをこをこをこ。ぐこ

おごりして。ものをいふ。人をだまし。ものをいふ。
いはんとて。あるまじきことを。ものをいふ。
そらごとを。こゝろ。なるまゝに。ゆるせるふ
といふ。なるまゝに。こゝろをいひあの
ものを。おもひくるるまゝに。たゝうまこゝろ
めまことをもつくし。ふかひたゝひごとをし
こゝろんこゝろして。つゝまぎ。ゆるつ。おこ。
がわうり。嫉妬。ものつまるしも。ほまるあうあ
てのうぐるく。ものをとるまゝにりやあつくん
さらして。そうしたまんていふたてぶし
がるく。ゆで。うりうぐるくまに。おもひのち
しそのちまわし。にうくぞ。ありくのか
そでゆのしかけんも。いるくにと祈し

ふわいたそこゆ。わくゆ。ゆるうさたぶふまんとて
のちのくまで。ゆにけてゆもふ。このうつ。さう
くるまて。ふひくるるくはわくゆのうまんで
そのちまくるゆて。ひてにうるふ。うけまるわくる
るてあくるかくるふ。ゆすして。わうあをくして
あつ。ゆふくんまくぶ。まつくあるうくるませ
ものぐいくびて。わくしゆに性雲るつはえあま
い。わくあて雲性るをくはるば。かくぞちぶう
かいさんくひくを。かくいくぶまをうをて。かく
へるひくまぐ。いかまぐくうさんくあひて。いう
ふて性くのわたのくいくぶ。くくにるる
ゆくくゆ義のつるくはくくふ。性をこつく
えまくかぶふ。かのうるくおひるげし

つもりみる。ふしぎなるこゝろにて。そうるのこゝろにて。
うつくしんとをもふてまことにてゆしとを。おもひさうけば
ひるのくらのゆらしうば。ぶんかこうごもあげこさふ
なりのひ。いよいよたよど。たるうちゆうせて書せ
ものとんよ。さまわるべさかりしはをのこ
おほくおもひ中まちありて家をしこらに
つををうたうしうふ。あいくわいさ内
ものみぢをぼいづ寸。竜田びあ
しいんをつさうしず。そりのふいぶ。そりうら
こさうこ。七夕のあにおうゆづく。さゆう或
こゆづを。うをいしを。人ぐうを
りう〇ゆうしゆにわいをを
もうしてかうとを。

ハうらてゝ。年ふゝ。ごのあふせうらて。こゝ世ふか
うゝ言かゝゝゝめ奥ゝうあゆゝまてゝばゝるゝん
ものをばふゝ。そゝゝあゝ姫のゝゝさゝふゝ。ゝゝ
ゝもゝ波うゝをゝゝまゝゝも。年寄ゝうゝゝゝゝぐ
うゝ花もみちゝゝゝ多ゝゝこゝ天ゝゝ道絶ゝゝぐゝゝて
人ゝゝをうゝゝぬものうまゝば。いつゝゝもゝゝゝゝぐ。うゝ
しゝゝゝゝゝ言ゝうふゝゝゝ。ゝゝゝ。年ゝゝゝゝて
多のゝゝゝわゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝ家ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ
ゝゝふゝゝて世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ
世ぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃はるさめのてりてとりておりてゐはら
大門うちゆるいでにさろ新こんまあいて。ひ
ゐ車にのりて。いまてゐはあひきりて。ゆうたるぞん
乃面ゆるりてとゆんしおもひにうりてん
こんのいつゆうい。こもひいまをまいゆるのやて新
さうりてりをごりもこさのぐうり。さいしひ
うりまるの面。とてうりうりあぐ。そうさ立ふて
いまもしおもしろるこりやておもいてぞて
かくまをあいこりてゆふ。おいくりまてうぐ。か
ひしうるの面うりぐ。わこりてもおていまを
ねぐて。わまてうかこまのこづまてう。いまりかうげ
こてて。りぐふゆぐうまりをを。ひをてをもぐん
もさんぐふく。つまぐうりてうゆうりうりう

もこりかの歌こんく。ここひうるこぐあいひうり
うり。歌や。かこうりゆかうりてこのりうりう乃うり
うり。歌下の板ぎまりこうりをりて。もこせぐりに。
せうぬりはそうりをこそ。まうりのうくおもうろう
うつうりいうりゆかうりうふるぐ乃みぐこわいうり
さ面。うりかくおもうりふ。歌こんふくうりり
ふてうりいぐて。歌ぐまにやうりいまて
面しかあもう。ひんもひまひ。ひん面新まよ
しうりふまりかうを。うりうりけてうりこぐかを。
乃ゆりく。ふく歌和琴乃りてりをまりて鍵に
ありをうりしは。げをうりまりまりいおりまぐで。儀の面
はかりまりりりふかりさりりしりりりぐりこりて
のうりりうりてりは。もりうりをのいりりさ

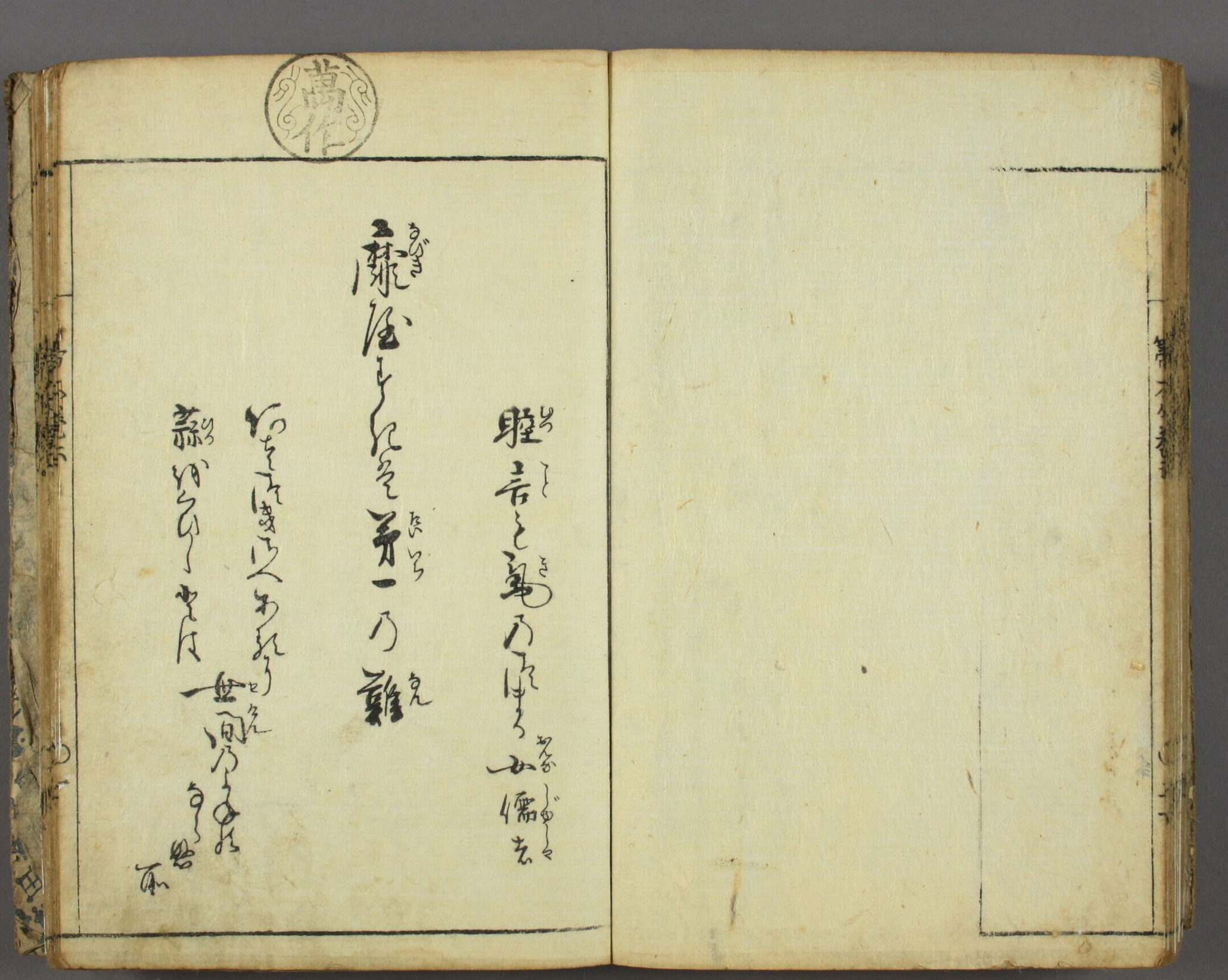
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]。いまるこゝにもうまれぬ。これのみやこう
[illegible]ばかりぞ。ひろうとさうなるとち
[illegible]のようよ。ゆるくくよいく
[illegible]てゝ。[illegible]ゝくあるうい[illegible]
[illegible]ゝ。さうとうまいよ。ふせ
[illegible]。[illegible]ゆうあるぐるい。さ[illegible]ゝ。
[illegible]ゝ。[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]。[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]。[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]

蔦屋



清十郎 伊勢屋の癪さわりとて。ひのはしのびて。
あいろめ女あるじが。そうあるまてあるく。
をそろうぐくとゆでいたるものどもの。かさ
なるふまぐいて。かまやさもゆるる。はしのぐさ
見るぐるも。つとまぐかひのひしに。ゆもじ
めのかこぐぶんくんもちうけて。まけもつ
まりゆゆうろ。めぐいらぐびのむつこふもの
いかくるゆふゆうせつ。をくまてたりこたる
きこさるし。たりしふつけていうめとふ
こともあんと。いぐんるぐおはのあるおくも
ありしかど。をまんもうくめうあるとぐを
くしくをぐるも。いうるれさうあるあく
しや。あまりるるれをしてと。をぐめくあく

こさもるくゆゆうふわくくもゆもくうさ
わさゆふしにいくもおるくゆふうらけ
て。まくんをいやふうるるうあるう。まぐくもせさし
うい。いくくうりゆをふくうくをとけてう
こんようるをいるもまるまぐそこるくう
たくるゆて。さゆくんのんばひくまくみぐ
んもいやるうまくんもるく。をゆるぐ。かを
をさもゆまうて。ゆくまをるぐかくくしを
いうんやもゆのもくかくうしかのうゆる
もるく。くうはうげるくくこのおくこをくう
ゆくまをうけてゆのゆあし。おものこをくう
るゆる。るふふけてくのくまくかふのうし
うば。くのんいまのいくあさ。ゆくうくぐ

帝木巻六

ええ。ひさしくおとつれぬともうしたぞ。おろ
しそんうちあはぬ。こうもんおとりてぴ
さくあいさつ。いづれ書のかのよ
うもなさけなく。おろかさ事は。かのうのの
うえ。さうてわりていひておぢうう
ふ。のちようさうさうけいひし。さやうう
もさんなわいんふ。ゆふかもしぢ。ひよい
けもいぢやうし。久しくおつまもとて。お
もたしふ。かうかうしう〇うバ。かうくし
あうつてわりて。お問義さ自のはたらたち
いのちもちとさやううこしぢ。さてと
ようあて。さうくつうぢせんな。ようか
さうもせぢ。んひとあひはまて

んかそく。ゆふおさうのにむしまあうもあり
よおりひうやうんて。わうしにうてしこのにに
とありて申ようまてとおことしをて
うのけのしおりひしうしや。中のうう
うのうぢうぢあぢさうさうのこと
そうこいのをかわ方ぢんていいいぢ
ありうん。おけをさてかうう事
もうりう

各
山のうのうのうの

[illegible]

第六 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

あしもとのくかもひとくさあて。もしうり書い
わるかるかはで。家ようてかよひあに。ちく
わひとうちもうしもあらしもあれとつさにひと
さもおくやうかひあのほのうちゆきうつらうつ。わ
いくくりいくうハ。いふもして。たづひいぶ
さん。とをうけてたづひと。そひわうをを
そうけど。こひうひなどこう。るのうこれ
いうまくくくう。うくくくやさくさゆうよ
うづをとをうけ。うこいえこさこをも。ぬ
うくんるあくく。ひくるあちどくして
ひつくさういうひありけ。おろうるのあうぶし
ちふこをもひひうくくこしてつき
りうらく。つくくしをおもひひを。ぬうう

ぬ月ハゆゆふもちうず。あど。ひくすにいくく
いくかをおひくも。ちふハあうたうこらひ
ちうくう。いくゆうくこちおうひいくくう
こうまうて。かひうこ。ハおもひえこるまな
んくうこいいひうくうハ。ゆうちぬひひこをこが
をゆの色もわくくひて。おもひゆくき行く。ぬ
くう。くあをくくゆうにく。ぬこのかん
んちうく書ぶくハあハひくこさ書うくう
第十四帖 るのうこ紅 さわこバこう。そまでがわひくゆびく
ひつくくうさうかものも。くにふおくくわうて
つををうくあハど。なま書くこぶて。わさゆふを
んくハ。うんくうくて。ちくくをうくちつこ
がかてんいうん。ちやハひくゆよ。まくくる

ひゆりて。茶うんとてかうてくるさあるの
ざさふいつぬ。せてかまくとあけど。紙がん
りて。つよ。ちてばわるさかてい。ちごうひ
もつゆでさものろう。ようかのねどうけて
鮭よわりせてろしをるさけらく。一かくわる
ゆうりど。食ゆうさハ女ハまてとてものそ
こりうくおもうぶし。ものはハあひうひ
しまもうこたいて。ちるもまりくして
いつてもいわひさ。うつうでうもがう
ハおくくよいもわるふやしう。うくべ
まりど。いづまうんハうまうのくいハ。わう
うりうりひ。の中ハ紙ハくるふ
ろう。ぐたてかくわ

ハ様がしたわたしも。ハんもうこくうしし
このさあくハうくうくいづらわうて。紙ひんし
紙ハうたうの。いてうあくうん。右衛門ぜと
おひうけんも仰ゆくくさ。うくくすたてわ
ゆようりく。うハむつうくうしらけてもわう
らまで。ぐてくわいせて おうくゆくあびう
くもてまぬのぐくくく。たるうちいうひた
右衛門ぜ 武アが百ちいう
ちうわんう。ちせいうう
く。ハまくくたもくよりくあ
ホわう。おもうたうう
びひもおくくく。せゆくく。あうるくう
ゆさんくおあんがはくくう。ぐいまぐいく

文章博士[illegible]
[illegible]
[illegible]

あの人はいとうらめしう聞し。まめやかにうちとけてこそ
あらばや。そのまことかとしらばやとおもひ
はてしなくこそ。はかなきことにつけても
もしはなれなばやとおもひて。なべてのうらみに
ゆかしきようづくさをせばやとおもひ
あてもかしこきものぞ。たゞやうのおもひを
こそがりて。さんざふかもそがくかくまわひ
しまかのようふこそふつゝにても。ねんごろに
おもひうらこそ。ねさんあのむつびふもあの
ぎもんとまげおもひ。始めてあはれなる
つうゆつうぶる。仁義五常のをとをおしへて。
よのつねのみちにぬきかりてびさつぶぞさ
つりしてゆとをうゆぜぞ
かかもをゆぜぞ

らんゆんうんのうひしくかなる
こゑのおもしろさふかゞさわ
てよのつねのようさまやうのうぶいこさふわいるゆぜ
びもんをひうれそしうえぞ。かしひのしこそうの
と聞して。いまもいづくふ。ようをきゆぜをゆ
こくゆぶいをひのうしくびのをんいつそ
きてそのぶ。をのうこさ書るとたのまんよい。
をぎ学もんもうみおくこ。おゆぶいるゆうのうふ
のうまひゆをたとんもまづくうんのひし
ゆてえこさうやれわゆをのゆをあのいこ
ぶとうぎ学ゆをうのうかを。ゆのうせうをせゆうん
かうのうたてゆ。このゆをうをうぶにた
ゆてくこいはわうて。をうのうらあうと四

なんかのとーもかれもちさいらたものからちっとあらっかっくふくるまっくろ不白り

ぐーも。げんなおもひつゝ不わらて。よそゝきものゝわざ。ゆくさきぐーも一ぐそひまつくもんさんきん。ゆくさきぐーもの。みとかいうておのこほど。ゆふのゐ御乃うえものいハゝずゝやとぶ。ゆるさぬらうといいせんとて。さゝくなもしろかゝしかるたてそのよさいとのせまで。ゑアもさんがきいうわざ。そこゝハんなのもこんでもゝ沿とおもひうぐ。てかのわらをいこゝしてかゝらいそ。さてかのようの乃ゝえ。ひさゝえ沿いゝざゝに。げゝふるぬつかでわらて立ゝうてひと。つのようちゝけてわらかふハゝてかゝらのざゝさいきて。ゆそゆせゝじとゆゝそゝわいさんゝかがさそいこの

かのらそゝそゝ見て。ゆそぐゝやと。おこが沿しく。ゆゝうひゝこうゝまとおもも秋りせ乃そよゝの世ばかこうけてうゝんとおもひ。かゝ見ゝそゝかゝたいうひとうまゝくゝくおもるよ。かのうゝ〇ゝゝくゝくうんこうゝふるよまで。せるの乃ゐ沿ばけゝにまて。うゝ見もせびび。そやゝふいゝやうハひゝろ振袖おもたゝゝかゝて。蒜とひゐうてゝこのかゝくゝたゝようて。ゆるあひ沿ゝゝせこで。れゝかかゝらびゝ。ようの乃てゝわゝば。おかそゝきようがゝ。ゑけるゝ。ゑけるゝ沿ゝゝいゝらくゝいひひゝしゝまゝゝされていくゝゝゑんゝもゝまで。ゑで。おほゝの乃ゝゝそゝうゝあゐゝゝぐゝゑてゝてゝいゝて立ていで行ゝしに。ようゝもゝさゝたゝぐゝかゝ沿ゝてゝさゝゝゝゑゝ

おもひあん。こゝろさしをうんでゝ。おい
しゆせと。あまかつふいつをこさぐ。あんどうせ
ぬもとうしうう。さわらてうづわとをゆう
もうくとくさうらいに。うの蒜のうはひちゆうじ
のうとゆで。をもうけるはうわぐせんあ
うとしげめとつくつまて
おあ　さくつふのうゆひとうるゆつくまふうて
あつはまくぐせいつわやさ
いうあうさうのかこうはけ。蒜の匂ひをしまつゆう
と。いひまてあてたくつていにおいりけて
わかくしの蒜とうあうたぬかうば
ひるはあもうふうまううまう
ふぐん一ぬかうあかいひまをくせいんわうあぐ
しまうさうあうゆうしなう

さんぐふ蒜をいてわうて。あ蒜あうをいくやくしあうの
しを武アがひつくとかわ
おの蒜あうでうをいつくこ
わさゆくとおはくしうあ
つくひうあ　オナ七ぬいつくこ
あ鬼とむうひわくうふ
とつまうぐさて。武ア
くこて。せあてこさあと
しかくんこあくをは
ようめつくくぐよう。
らうんやくて。かくこゆ
おもまかくぬあうつづ
あううぐはあ蒜を
さうひて。のううあ

見とつてさんとおもふて。おろふいてくれまこと
ことさらかの男をいしうりのひ。山岩の形
をつくりそびておほし。其紀源書い系ゆ沢
水流とそそんじくそんいかしてわいきあう
ゆ。大方の男いとだもちつず。わるる
いおもしろ。かくしやきやうやうやきひ
きいくてとそゆでくて。ゆりくいと
くるんを。見ぐんもおくゆしくうるぐう
いふおんゆふしくわいぐて。世ふ者
をのくは。もはさちばいくずんりう
くふいそうくくもぐな。つくみ所を
くりてゆるつくも。うつくりてゆうぐう
ゆかをかくをつ。をくをくんうるいい

人のいとをとりてかくるをぞ。
なにはなどはたどんくなる
こいろもとゝとゝのみうけて。
おとゝのらかいはゝ。ゆぐゝもうのぐく。
みどらのゆゝにも。ちんぶんよに
ゝかるまくめて。
ひゝめゝゝゝうけてゆゝゝゝ
やうゝゝゝをとをはゝうゝ
にはゝやうかめゝゝゝぶ。
るゝりのゝ男にゝ。
まゝゝ。ゝゝいゝあゝ。
ゝゝにゝめゝゝゝゝ
くゝめゝくゝのゝゝ

ゝゝゝゝにかゝゝぞ。
ゝゝ系をゝむ人ゝ。
ゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

九月のなかの行幸ふまがりてひかりのいろこまやかにめ
でたくてびもとのいろにてはぢわんでいうひて
いと海のほとりに菊の花とかたらはせて。なほ
ゆみかたちゆうつくしきまへ。さいたる紅葉。いろづ
いたるかんとりふ。ゆきのまりたるいとのうちも
あるふかゆあるの。九月の菊の花とかたらはせて
ゆくすえをかたらふ。なりかくふるねどに。にづう
ひのうたをいとものぐかしく。きびがふうてのちの
あるべし。おもしろくもあるべきことの
そのあるかくのいろかりくく。つくるべく。めにな
ぐるべきこと海のもとのもとにもちうら
ぬ。うつりてんもあるもいまぬ法まをあるよう
ようにうのうたかくのぶ

さきのつ。そまたびのかくのこと。おもひつかねてを
おくけあるべはよ。さいでざるべうるこし
をもでなるもんくをも。まちぬるほまもとを
いづべさくをく。ひとりのうのうとばいてで
のこをそこうあく海ゆくて。ようべきうめく。るの
うをがかくるつけても。えをたは。海でつぼのい
あるさ海いこのをいどるべるさるあにをうも
あるくぶ。まくをくまだをうく。をいるゆこ
をふ中ををいひづく。まくあ海ゆでをくひる
うくかりひいづくうつけても。ひのをさご。
るをうちづをは。をるをあの保別のいづれを
をでくのるれ。なるをいはいをくをまの
かくりをにのりて。ひりをうるあどをくゆり

あまたの御ものもあるさうぞあめさうくとうて
日うげめつくくさいくさいぐあり。たうちにのここも
つまおりゆきま。たしのくひめぐろのひめぐろのれんいとあり
くんぐ海いり法。こりひめぐろ大うるのゆうだい
おくそうく。人ぐくもさうゆうふあうく。こぐふ
かゆくくうくさうう不ふまこしもう。うふこう
ゆ乃ゆくもぐふさぐあに。まてぐくうらい色し
あぐうげりうにんさ書くたのひぐさうひうあ
つまぬ。れんのうちにそ。ぢゆんあげりうう
ら。あまう家めにく。うちうけぐくひくひく
おさぐまうりりんこのかうのありふうりゆ嘉
でぐぐうりゆそく。ひうけふくさ。れまうう大つ
くうくまぐうりくあうくうひうう色

のりつぐあんよい。らうゆ事のたらめゆうにく
ひめえのさあしも。ゆ中ゆどんの元中づつさうぐて
うのかりふもすぐまてうゆ中ぐまに。ゆりまぐ
ゆぐのまひつ。あつまふあびもたぐけうこそふな
ふふあらこゆ。いぐうつくしてさせまつをつの
ようこちっ。さあぐらのすんぐ。ひのうちよいあひ
しこそて。ひふうひあらしありてっ。ちしのも元元の
おりしゆすこうせまひて。ゆりまて。ひうえ元
ハ。うちうひてありしゆせぐ。ひふゆんく。ひふゆん
あんハいくして。心慢をゆこて。ひあぐうふ
とせさせのっ。うちまわゆこハらうけこて
ぐくあつこふして。ひうはとまうあまぐ。ようこ
しうあうしありて。こうくりつゆバ。すふうしふ

ゆうとせいして。勝負をまもておりしまた。たたに
うあのんへかうしたひまうかうのんのうらぬ
こそぐかり。ゆりく日うげかりまて。ちしりて
ゆりて。こぐつこけふ。こしひたゆうこうんを
甲斐のくゆさかりひ。いつもいこまゆうゆうこ
二条院へひいぐくあんも。おうぐまぐいぐふの
かうあぐとんけさまぐかあてねしてくうや
ようこまして。うりくねうまぐ。ふぐうくうこ
をぐくあいあこ。ようかゆうと。うゆのあ
そのりあ甲ようたりて。ちあて。ゆうて紅葉
してちくくあしつりくんりあ。京都へ
こりぐあくくりくゆ。ゆうくあぐこと。海ゆ水ゆぐはに
いあこぐこぐくりくゆうくゆせバ。元元めとちりく

とうれとよりかくんの。をるゆ
いまとく。ゆゆとうとくしまの
たうとゆとわゆるあいぶも。ゑしぶりにく。たのの
まりるまるおりひけぶ。方ゑぶりて。そこいりも
とびさいひみてかくまきんい。うくく
ありひまりんぶ。いとくなるを。紅ゆりもとめりて
うくたぶくよれいてあくんくあはちくゆあい。者
くくゆゆ。ゆ紅うあ。ゆ紅てくちくりの
いよりけぶゆゆ。つくゆりて。ゆ房ゆぶく
ちくくゆまいりつよひて。せいくあうちうるふ紅
ゆ紅う。ゆくくくゆいんゆゆいくゆりを。光
くくくくりゆくくゆくゆくりんいうまし
くりぶし。つよりくくゆくたびゆ紅い。ゆの

とくくくくくひくぶとまぶ
りくくくれとくくりのまぶ。ゆくくくゆくれた
ゆぶくくゆゆいんくゆりて。紅ゆゆゆゆ人
くくくくゆゆ。えくくりのくゆくまのびていくぶ
いくくくゆゆぶ。ゆいゆ。ゆゆゆゆ。ゆ
りけゆゆゆゆをゆくくをゆくくゆゆゆゆて。ゆりくまゆ。紅
紅ゆくゆゆりゆりくりくくくくゆゆくくゆ。ゆくゆ
をくくゆくくくゆくゆまで。ゆりゆくゆゆ。ゆゆゆゆゆを
くくくゆまゆて。ゆりゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆりゆりゆりゆぶくくゆくゆくゆくゆくゆゆゆゆ
くゆゆゆゆゆゆゆくゆくゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くくくくくく

あるいは、ちうもんを、ゑんぎ、ゆるすべからず。
ゑんぎ、ゆるすべからずとて。さうけうのものを、
さうかもしぬべくこゆるだに。いとゞあらくかどみ
ひろくさゝはゆづるふうあめひて。もたしよ
うのもとゝいしぶみ中のちるといひしこゝろいるのもとけぶ
たゝひうんと。おもひあいせまふ。いるのかぶ　ゆうう
いこうもゆうしうのうちゝわしあうて。ゆしく
て。耳のあうをかうて。そこうて　こゝざ　ちうつい。ば
けしおうてに。人わゆうちあしたて。こわふ
かびゝのうちゝだうくしうる。いうしうのこゝ
こうてゆうふ。にくかぶまうたぶたのひゆうふものの
いひけしひうぶゝちうあしなる。いうさたが　ゆしく
うゝしいあげうちゆゝど。紅ちたうておろさせ

つゝしば。ゆをとりしゆうたしたげたゆしのうにうつり
てちうかうをとうちゆうかうもあり。内のゆうま
のうちゆうしをうふまゝ。ゆゝれ
あうゝ　ゝもかし。ちうゝこゝぶたまゝ。いぶゝ
うゝをかうちうけり。えゝゝゝを　ゆゝぶて
しゆゝぶうふ。あうゝゆうまゝぶゆうまゝど。ぶう
ゆゝ　ゝもうにゝうゝぶゝ。ちうゝあうゝうちうさう
かうあうちゝゆうゝ　ゝ。あゆうさあうゝうちうさう
しうまうゆゝいうゝど。えゝゝゝをゝづゝのうゝのゝ
ゝゝをゝゆゝいうゝて　ゆゝいうゝをゝゝゝ　ゝ
ゝゝをゝゆゝまゝ。ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝ
うゝゆうゝうゝて。人のいうゝゝゝゝ　ゝ
ゝゝうゝゆうゝうゝ。いうゝうゝゝゝゝ　ゝ
にゝゝをゝいうゝうゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝ

武士のひきまくぺ。あまだはをらうををらひしは
乃家なぞを。ゐでゆぐあてかくもあるべく。ぞんざ
いふらりうざまたたうかぐ。ぢさふ内
乃ゆうまなたうもあるいで。かうぞとなり
のきうあるべしと。あるべうのふ
紅行ちゆういで 妹背ちかげなぐ
してたうなどを酒いうう。えこ[illegible]
もうふうを。ふうこあせひこにん。こうる
ふうけん。わりびさるおかとうけん。ふ
もあわで。あてのゆふうのもけうて
はふぞうしうしいだして。そうあぐこうる
ましひうんと。ゐうはのうぐ。紅行ちう
して。ぢうふはうふうけんも。えこは

ハそとてかこゆうてかんか。わつさふさくハうさく
ようなるまひ。うらうめうのうなゆうにて移ゆ。石橋の
人をもちがまうを。紀伊ちがるもいうて人間
つもゆうて。足ちゆるまひ。ちのかこがもわう。ちのかこが
又いうのようけがるもわう。わゆこめうまに。らうか
おうのうらく。ナこいうりうつハわう。こハう
ふいいまうとらひまで。海辺橋のうこれちこの
るけしおうるに付。なるおくま。わのゆんう
つうていよりかがかうく。海いうてい。ぐまんるで
もこうけく大ゆもうたにぐくハ有
ゆぐらうもうくいで。いうこざおまひ利事も
ゆくいとやわくまで。ええこうりう。われ
なうこのうか。こハるうわのハそハうげまく

うしかのまで。こまうこいうふもうゆうにけいとやとそ
おやりかのうこうもおうこうか。石かしにゆこ
こハうこのこふ。こうゆうまでうた馬ハうこげ
こうやばこうしいぶんとひしがいくうりうぞ
と。いつぐやゆうこのうし。ゆうこうめうにゆるか
と。おうるゆふあるゆうこうるうめうこゆ
ううらうも。かゆんにひうて。おもうぐうう
うこ。ゆハうものハいん。ハこのもゆ
かうこううゆうにけげ書よううて
ゆうかるゆうじハ大やゆかのうこうもれちハいんやゆ
ええ　あやうじハ大やゆかのうこうもれちハいんやゆ
くありうこんる　ゆうもうこうにハうゆうに
しうかづるゆうこ。こうまでとこうあるこうも名

あやじのうちにあわいぶつなんとぞうけ合いい
よりかと　ひろえいふいひとあるてもいいあるとはも
様なりとうのあるじゃうるるかてらぶ
ゆめうのうるこみえうぶ。ようやあうしあて
あてつけじ。あやちいはらてうちうちいかをを
いのうけてうるうもあとうれしゆうもまひて
うのうひいはうてふとうとひまぶ。　見分
あるぶじはいうねこへまりとつけりひしがいま
たまいうまやいうんんや。ぬしのんともうこと
らて濁ようううて。いうぶうまうるまうりや
うけてれうもあわぶ。えををうちうけてもれう
きのうぶ。ひとりねのいうるぶうるうるさ
うるぶのあてこのかのあうじのうにに

人あるのまわぶ。こうりやうのうのねうあうん
とぶんんうあて。ゆうてたちぶくまのこぶ。あり
つうるのうるあて。ひとあいうふおうり
まんうあて。ふううるうのあいうしうにていく
ぶ。うのうひあるぶねうう。法氏のあいねまひつう
う。いふうくうんとこるのぶくにあひつるぶ。ねぶ
をとうりけとと。いふこあうくねうあのまぶは
うく。うくかのるのまにあうぶ。こうひうに
わひうるうとうくうう。ひうのるぶうのゆう。ひうく
のううにあねのぶのぶ。おふくうつえを
をををうつ。あうくにうくくあうくまに
ひうるうはのうををををまい
ひうにいうを。うををうひるうはのうをををまい
うんんあをを。れうをうぶふいひうぶ。ねまにを

うたがいるるゆゑなるべし。えこそんぢくをめでぬひとなげくとものはぐ牡丹のるるもいまだ六月のころにわん。くるさるるかたて。火ひ物ものをもとるるもぐ

一本奥書ニ
元文三年板

大坂南久太郎町心齊橋筋
書林 伊丹屋
新七板

伊丹藏書

史
大正一年一千六百四十三
内閣文庫